

# 徳島市住生活基本計画見直しに向けた市民アンケート調査報告書

令和4年10月

## 目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 調査結果概要.....	2
2-1 回答者の属性について.....	2
2-2 現在の住まいについて.....	2
2-3 これからの住まい方について.....	3
2-4 防災対策について.....	3
2-5 市営住宅について.....	5
2-6 住宅政策に必要な視点について.....	6
2-7 空き家の所有・管理について.....	6
3. 調査結果.....	7
3-1 回答者の属性について.....	7
問1：性別・年齢【それぞれ1つに○】.....	7
問2：住まい【1つに○】.....	8
問3：職業・勤め先【それぞれ1つに○】.....	9
問4：家族構成【1つに○】.....	10
問5：世帯人数【人数記入】.....	10
問6：18歳未満の人数.....	11
問7：65歳以上の人数.....	11
3-2 現在の住まいについて.....	12
問8：住宅の種類【1つに○】.....	12
問9：建築時期【1つに○】.....	12
問10：住宅の構造【1つに○】.....	13
問11：バリアフリー等の設備【設置設備すべてに○】.....	13
問12：省エネルギーの設備【設置設備すべてに○】.....	14
3-3 これからの住まい方について.....	15
問13：住み続け・住替えなどについての考え【1つに○】.....	15
問14：新築住宅か中古住宅か.....	18
問15：今後実現してみたい暮らし方・重視したい項目.....	19
問16：今後取り組みたい環境対策【あてはまるもの全てに○】.....	20
3-4 防災対策について.....	21
問17：住宅や住環境の不安.....	21
問18：住宅の耐震性（耐震診断・耐震改修の有無）.....	24
問18：（附問）耐震診断を受けない理由【あてはまるもの全てに○】.....	24
問18：（附問）耐震改修を行わない理由【あてはまるもの全てに○】.....	25
問19：支援制度の利用（平成12年5月31日以前着工の木造住宅にお住まいの方）.....	26
問20：避難場所の認知【1つに○】.....	27
問21：避難場所や避難経路に対する不安【あてはまるもの全てに○】.....	27
問22：今後進めるべき住宅や住環境における地震・津波対策【2つに○】.....	28
3-5 市営住宅について.....	29
問23：市営住宅の今後の役割【あてはまるもの全てに○】.....	29
問24：市営住宅の建て替えのあり方【あてはまるもの全てに○】.....	30
3-6 住宅政策に必要な視点について.....	31
問25：住宅政策に必要な視点【3つまで○】.....	31
3-7 空き家の所有・管理について.....	32
問26：空き家との関係【1つに○】.....	32
問27：経過年数【1つに○】.....	32
問28：管理の頻度【1つに○】.....	33
問29：維持・管理の不安【あてはまるもの全てに○】.....	33
問30：今後空き家をどうしたいか【あてはまるもの全てに○】.....	34
3-8 自由回答（抜粋）.....	35

## 1. 調査の概要

### ■調査目的

本報告書は、徳島市住生活基本計画を見直すにあたり実施した、徳島市の住宅・住環境に対する評価や住宅政策の方向性などに関する市民アンケート調査の結果をとりまとめたものです。

### ■参加者アンケートの調査方法及び概要

調査対象	住民基本台帳より無作為に抽出した20歳以上の市民
対象者数	2,000人
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和4年8月10日～令和4年9月6日締切
設問内容	回答者の属性／現在の住まい／これからの住まい方／防災対策／市営住宅／住宅施策に必要な視点／空き家の所有・管理
地区設定	北部（応神、川内、加茂、渭北、渭東、沖洲） 西部（不動、佐古、加茂名、国府、南井上、北井上） 南西部（内町、新町、西富田、東富田、八万、上八万、入田） 南東部（昭和、津田、勝占、多家良）

### ■配布回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000	693	34.7%

### ■グラフ等の見方

- ・グラフに表示されているn値は有効回答数です。
- ・集計結果の%表示は、小数点第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・設問ごとの集計は、無回答を排除しているため、有効回答数の合計が、全体の有効回答数と合致しないことがあります。

## 2. 調査結果概要

### 2-1 回答者の属性について

- 「70～79 歳」、「北部地区」、「会社員・公務員・専門的職業」、「徳島市内勤務」が多い傾向にあります。世帯については、「2 人住まいの核家族」が多い傾向にあります。

<p>&lt;問 1&gt;性別・年齢</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●性別は「女性」が 53.4%とやや多くなっていますが、人口統計とほぼ同じ比率となっています。年齢は「70～79 歳」が 21.4%、「60～69 歳」が 20.3%とやや多くなっている反面、「20～29 歳」は 6.0%と少なく、人口統計と比較しても、20～29 歳、30～39 歳の若年層の比率が低くなっています。</li></ul> <p>&lt;問 2&gt;住まい</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「北部地区」が 36.0%と最も多く、「南東部地区」が 18.4%と最も少なくなっていますが、4 地区の人口統計とほぼ同じ比率となっています。</li></ul> <p>&lt;問 3&gt;職業・勤め先／通学先</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「会社員・公務員・専門的職業」が 36.4%と最も多くなっており、次いで「無職」が 25.3%となっています。勤め先／通学先は「徳島市内」が 56.2%と多くなっています。</li></ul> <p>&lt;問 4&gt;家族構成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「二世帯（親または子と同居＝核家族世帯）」が 47.2%と最も多くなっており、次いで、「夫婦のみ」、「単身」が多くなっています。</li></ul> <p>&lt;問 5&gt;世帯人数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「2 人」が 33.4%と最も多く、次いで「3 人」が 25.5%となっています。</li></ul> <p>&lt;問 6&gt;18 歳未満の人数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●未就学児、小学生、中学生以上それぞれ「1 人」が最も多くなっています。中学生以上では「3 人以上」の割合がやや増加しています。</li></ul> <p>&lt;問 7&gt;65 歳以上の人数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「2 人」が 51.4%と最も多く次いで「1 人」が 43.4%となっています。</li></ul>
---

### 2-2 現在の住まいについて

- 「持ち家（戸建て・長屋）」、「木造」が多く、「新耐震基準以前」に建てられた住宅が 3 割強見られます。バリアフリー設備は、「洋式トイレ（手すり）」が最も多くなっています。

<p>&lt;問 8&gt;住宅の種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「持ち家（戸建て・長屋）」が 68.2%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が 17.6%となっています。</li></ul> <p>&lt;問 9&gt;建築時期</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「平成 3 年～12 年」が 21.6%と最も多い一方、昭和 56 年 6 月以前（新耐震基準以前）に建てられた住宅の割合は 22.5%で前回調査(25.5%)から減少しています。</li></ul> <p>&lt;問 10&gt;住宅の構造</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「木造」が 55.2%と最も多く、次いで「鉄骨造」が 14.6%、「コンクリート造（RC 造）」が 14.5%となっています。</li></ul> <p>&lt;問 11&gt;バリアフリー等の設備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「洋式トイレ」が 61.7%と最も多く、次いで「階段」が 45.1%となっています。</li></ul> <p>&lt;問 12&gt;省エネルギーの設備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●「特にない」が 66.6%と最も多く、次いで「全部の窓が二重以上のサッシ又は複層ガラス」が 15.0%となっています。</li></ul>
--

## 2-3 これからの住まい方について

- 「現在の住まい」に対する居住継続意識は高く、最も少ない年齢層（30～39歳、50～59歳）でも50.0%となっています。概ね年齢が高くなるに応じて居住継続意識も高くなりますが、若年層でも40～49歳は64.9%と高くなっています。建て替えやリフォームの目的は、「高齢期にも住みやすい住環境にするため」が最も多くなっています。住みかえる条件として「徳島市内」と回答した割合が8割弱となっており、「駅周辺・中心市街地」が多く選択されています。実現してみたい暮らし方・重視したい項目では、高齢者にとっての利便性（できるだけ車利用が少なく、自立して生活できる）に関するものが多くなっています。

### <問 13> 住み続け・住替え

- 「現在の住宅にそのまま住み続ける」が59.9%と最も多く挙げられ、前回調査の結果（58.4%）とほぼ同じ比率となっています。

### <問 13>（クロス集計）住み続け・建て替え×年齢

- 概ね年齢が上がるにつれて、「現在の住宅に住み続ける」割合が高くなる傾向であり、50～79歳では「リフォームを行う」割合が高くなっています。一方、「現在とは別の場所に住み続ける」は、概ね年齢が低くなるほど割合は高くなっており、20代では約3割が住み替えの意向があります。また、30代の住み替え意向も前回調査と比較して約5%増加しています。

### <問 13（1）> 建て替えやリフォーム、住み替えを行う目的

- 「快適・便利な居住環境にするため」が最も多く45.7%、次いで「高齢期にも住みやすい住環境にするため」が33.3%となっています。

### <問 13（2）> 住みかえる条件

- 場所は、「徳島市内」が44.7%と最も多く選択されており、次いで「市内の現住所周辺」が31.8%となっています。立地は、「駅周辺・中心市街地」、「特にこだわらない」、「郊外の住宅地」が多く選択されていますが、農村漁村地域は1.3%に留まりました。住宅の種類は、「一戸建て持ち家」が47.7%と最も多く（前回調査より約6%増加）、次いで「分譲マンション」「民営賃貸住宅」がともに30.2%となっています。

### <問 14> 新築住宅か中古住宅か

- 「所有地・借地に住宅を新築することが望ましい」が30.1%と最も多く選択されており、次いで「新築か中古かは特にこだわらない」が18.5%となっています。

### <問 15> 実現してみたい暮らし方・重視したい項目

- 「買い物や通院に歩いて行くことが可能で車利用の少ない暮らし方」が38.6%と最も多く選択されており、次いで「プライバシーを重視した暮らし方」が30.6%となっています。次いで「バリアフリーや介護サービスが確保され、老後も自立して生活のできる暮らし方」「家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ」がともに18.2%となっており、「バリアフリーや介護サービスが確保され、老後も自立して生活のできる暮らし方」については、前回調査（41.1%）に比べて大幅に減少しています。

### <問 16> 今後取り組みたい環境対策

- 「給湯設備や電化製品等を省エネ型のものにする」が最も多く41.5%、次いで「太陽光発電など自然エネルギーの活用」が32.2%となっています。

## 2-4 防災対策について

- 全般的に災害不安の割合は前回調査に比べて微減となっていますが（「その他」については大きく減少）、「昭和56年5月以前に建築された住まい」においては不安を感じる傾向が高くなって

います。また、耐震診断・改修をしたことがない理由としては、診断、改修いずれも「耐震性が確保されていると考えている」が最も多く、次いで「自分だけで耐震診断を実施することを決められないから」といった理由が多くなっています。耐震診断・改修支援制度については、1/3以上の方が「知らなかった」と答えており、前回調査と比べて増加しています。

避難場所については、前回調査とほぼ同様の回答傾向ですが、「避難場所を知らない」は15.5%（前回調査より微減）あり、安全な避難場所の周知が引き続き求められます。

<問 17> 住宅や住環境の不安

●前回の調査結果と比較して、全体的に「非常に不安である」「多少不安である」の割合は微減しました。「その他の不安」については、「非常に不安である」「多少不安である」の割合は大きく減少しています。

<問 17>（クロス集計）住宅の耐震性能×居住地区

●「非常に不安である」と「多少不安である」割合の合計は、「北部地区」が67.5%、「南東部地区」が63.0%で高くなっています。

<問 17>（クロス集計）津波・水害発生時の浸水×居住地区

●前回の調査結果同様、「北部地区」と「南東部地区」の3人に一人の割合で「非常に不安である」と回答していますが、「南東部地区」では不安の割合は微減しています。

<問 17>（クロス集計）津波発生時の倒壊・流出×居住地区

●「非常に不安である」「不安である」の割合が最も高いのは北部地区で、全体の傾向は津波・水害発生時の浸水に対する不安とほぼ同様となっています。

<問 17>（クロス集計）火災が発生した時の延焼×居住地区

●地区別では大きな差はなく、「非常に不安である」の割合が最も高いのは南西部地区の29.3%、「多少不安である」の割合が最も高いのは北部地区の61.2%となっています。

<問 17>（クロス集計）津波・水害発生時の避難×居住地区

●「非常に不安である」の割合が最も高いのは北部地区の30.3%、「多少不安である」の割合が最も高いのは南東部地区の57.9%となっています。

<問 17>（クロス集計）周辺での空家の増加×居住地区

●地区別で大きな差はありませんが、北部地区では「非常に不安である」の割合は他の3地区の概ね半分の割合となっています。

<問 17>（クロス集計）住宅の耐震性能×建築時期

●「非常に不安である」は、建築時期が昭和56年5月を境に変化があり、「昭和46～56年5月」が42.7%、「昭和36～45年」が36.8%、「昭和35年以前」が47.6%となっている一方で、昭和56年6月以降の建築では2割を下回っています。

<問 18（1）> 耐震診断の有無

●「耐震診断をしたことはない」が75.2%と多数を占めていますが、前回調査（81.0%）と比較すると減少しています。

<問 18（1）>（附問）耐震診断を受けない理由

●「耐震性が確保されていると考えているから」が29.2%、「自分だけで耐震診断を実施することを決められないから（借家や集合住宅など）」が24.5%と多く、前回調査と同じ傾向となっています。「耐震診断するのに費用がかかるから」が19.1%で、前回調査（22.8%）に比べて減少しており、「改修費用が出せないから」も含め費用面での回答は減少しています。

<問 18（2）> 耐震改修の有無

●「耐震改修を行ったことはない」が93.6%と多数を占め、前回調査（93.2%）とほぼ同じ比率となっています。

<問 18（2）>（附問）耐震改修を行わない理由

●「耐震性が確保されているから」が 38.5%と最も多く選択されており、前回調査 (32.0%) を上回りました。次いで「自分だけで耐震改修を実施することを決められないから」が 22.3% (前回 27.7%)、「改修費用を出せないから」が 20.7% (前回 25.0%) となっており、前回調査と順位は変わりませんが、割合は小さくなっています。

<問 19 (1) > 耐震診断の支援制度の認知

●「制度があると聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 35.6% (前回 28.8%) と最も多く、次いで「制度があることを知らなかった」が 26.4% (前回 19.8%) となっています。いずれも前回調査と比べて割合は増加しており、認知度が下がっています。

<問 19 (2) > 耐震改修の支援制度の認知

●「制度があると聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 39.1% (前回 30.2%) と最も多く、次いで「制度があることを知らなかった」が 29.9% (前回 22.9%) となっています。いずれも前回調査と比べて割合は増加しており、認知度が下がっています。

<問 20> 避難場所の認知

●「避難場所の行き方も知っており、行ったことがある」が 49.2%と最も多く、次いで「避難場所の行き方も知っているが、行ったことはない」が 34.2%となっています。一方、「避難場所を知らない」も 15.5%が選択しています。前回の調査結果と比較して認知度はやや高まったものの、引き続き避難場所の普及に努める必要があります。

<問 21> 避難場所や避難経路に対する不安

●「避難場所の安全性が不安」が 41.7%と最も多く、次いで「避難場所の広さが十分かどうか不安」が 39.2%、「避難場所までの距離が遠い」が 25.4%となり、前回調査と同じような傾向となっています。

<問 22> 今後進めるべき住宅や住環境における地震・津波対策

●「安全な避難場所の整備・確保」が 45.1%と最も多く、次いで「狭い道路の整備や危険な空き家の取り壊しなどの安全な避難路の確保」が 35.4%と「家具の転倒防止など簡単にできる地震対策の促進」が 33.9%となっています。前回調査に比べて「狭い道路の整備や危険な空き家の取り壊しなどの安全な避難路の確保」の割合が増加していますが、概ね同じ傾向となっています。

## 2-5 市営住宅について

■市営住宅が担う今後の役割として、「低所得で困窮している市民の居住の安定を高める」、「ひとり親家庭など住宅の確保に配慮を要する市民の居住の安定を高める」「高齢者が住み慣れた地域において安心して住み続ける」などが求められています。また、建て替え等によって老朽化対応を行い、戸数を適正化していくことが求められている一方で、複数の市営住宅の統廃合による戸数減や民間賃貸住宅の家賃補助による戸数調整の意見も多くなっています。

<問 23> 市営住宅の今後の役割

●「より低所得で住宅に困窮している市民の居住の安定を高める役割」が 51.1%と最も多く、次いで「ひとり親家庭など住宅の確保に配慮を要する市民の居住の安定を高める役割」が 47.5%となっています。「高齢者が住み慣れた地域において安心して住み続けるための役割」は 43.9%となっており (前回調査結果では 1 位 56.7%)、前回調査に比べて減少しています。

<問 23> (クロス集計) 市営住宅の今後の役割×住宅の種類

●住宅の種類別でみると、民間賃貸住宅とそれ以外で回答の傾向が異なり、民間賃貸住宅では「ひとり親家庭など住宅の確保に配慮を要する市民の居住の安定を高める役割」の回答が多くなっています。

<問 24> 市営住宅の建て替えのあり方

- 「老朽化した市営住宅の建て替えを進め、現在の戸数を維持する」が 28.4%と最も多く、次いで「複数の市営住宅を統廃合して、戸数を減らしていく」が 22.7%、「建て替えをせず、民間賃貸住宅の家賃補助をすることで戸数を維持ないし調整する」が 22.0%となっています。

## 2-6 住宅政策に必要な視点について

- 住宅政策に必要な視点として、「人口減少や住み替えにより増加する空き家の活用促進」が最も多く、次いで、「高齢者が安心して暮らすことのできるケアやサービス付き住宅の供給」「若者の定住が進むような住宅に対する支援」がほぼ同数となっており、少子高齢化の流れを抑えていくとともに、高齢者福祉と連携した施策が求められています。

<問 25> 住宅政策に必要な視点

- 「人口減少や住み替えにより増加する空き家の活用促進」が 37.3%と最も多く、次いで「高齢者が安心して暮らすことのできるケアやサービス付き住宅の供給」が 34.1%「若者の定住が進むような住宅に対する支援」が 34.0%となっています。  
前回調査と比較して、「空き家の活用促進」の割合が増加しており、空き家の増加状況について把握しつつ、その実情に応じて活用促進に向けた具体的な政策が必要となっています、

## 2-7 空き家の所有・管理について

- 「直接所有」し、「10年以上経過」し、「ほとんど管理していない」空き家が一定数存在することが伺えます。また、「老朽・破損」が主な懸念事項と認識され、4割以上が「売却したい」を選択しています。

<問 26> 空き家との関係

- 「空き家を（自身が）所有」が 34.6%と最も多く、次いで「親族、縁者が所有」が 30.8%となっています。

<問 27> 経過年数

- 「10年以上」が 31.4%と最も多く、次いで「5年～10年未満」が 21.6%となっています。

<問 28> 管理の頻度

- 「月に1～2回」が 27.5%と最も多くなっています。「ほとんど管理していない」が 9.8%にとどまっており、前回調査（22.7%）に比べて減少しています。管理の頻度が前回調査に比べて多くなっている傾向がみられます。

<問 29> 維持・管理の不安

- 「老朽・破損が進行していくこと」が 82.4%と最も多く、次いで「地震・台風等で破損・倒壊すること」が 62.7%となっています。

<問 30> 今後空き家をどうしたいか

- 「売却したい」が 46.9%と最も多い一方、「自己用・親族用として利用したい」も 44.9%と多く選択されています。



### 3. 調査結果

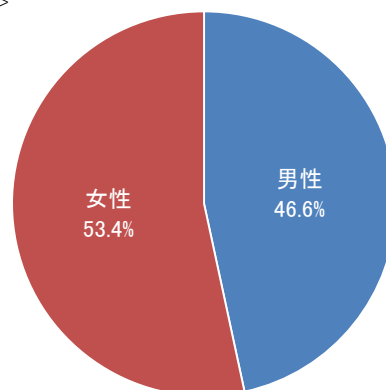
#### 3-1 回答者の属性について

問1：性別・年齢【それぞれ1つに○】

①男性 ②女性
①20～29歳 ②30～39歳 ③40～49歳 ④50～59歳 ⑤60～69歳 ⑥70～79歳
⑦80歳以上

総数	680(人)	100.0%
男性	317	46.6%
女性	363	53.4%

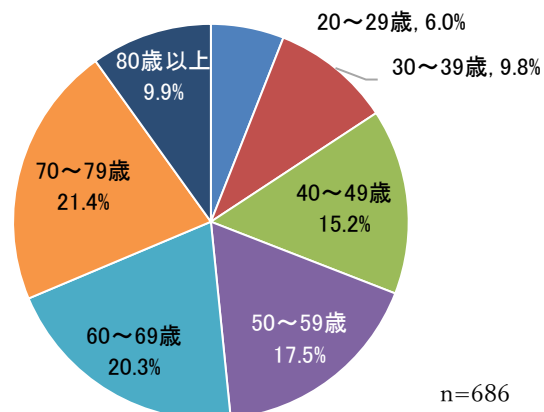
<性別>



n=680

総数	686(人)	100.0%
20～29歳	41	6.0%
30～39歳	67	9.8%
40～49歳	104	15.2%
50～59歳	120	17.5%
60～69歳	139	20.3%
70～79歳	147	21.4%
80歳以上	68	9.9%

<年齢>



n=686

参考 住民基本台帳人口 20歳以上人口（令和4年8月1日現在）

総数	208,789(人)	100.0%
男性	97,725	47.5%
女性	110,064	52.5%

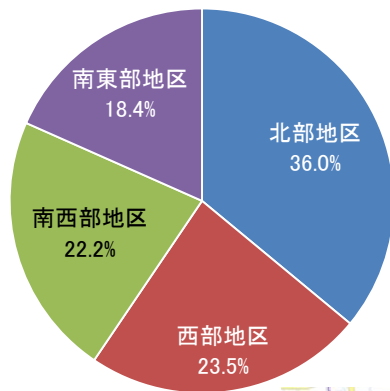
総数	208,789(人)	100.0%
20～29歳	22,967	11.0%
30～39歳	27,130	13.0%
40～49歳	34,359	16.5%
50～59歳	34,187	16.4%
60～69歳	31,608	15.1%
70～79歳	33,605	16.1%
80歳以上	24,933	11.9%

問2：住まい【1つに○】

- ①応神 ②川内 ③加茂 ④渭北 ⑤渭東 ⑥沖洲 ⑦不動 ⑧佐古 ⑨加茂名 ⑩国府  
 ⑪南井上 ⑫北井上 ⑬内町 ⑭新町 ⑮西富田 ⑯東富田 ⑰八万 ⑱上八万 ⑲入田  
 ⑳昭和 ㉑津田 ㉒勝占 ㉓多家良

<地区別住まい 23地区を4地区に集約>

総数	686(人)	100.0%	地区の内訳
北部地区	247	36.0%	①応神 ②川内 ③加茂 ④渭北 ⑤渭東 ⑥沖洲
西部地区	161	23.5%	⑦不動 ⑧佐古 ⑨加茂名 ⑩国府 ⑪南井上 ⑫北井上
南西部地区	152	22.2%	⑬内町 ⑭新町 ⑮西富田 ⑯東富田 ⑰八万 ⑱上八万 ⑲入田
南東部地区	126	18.4%	⑳昭和 ㉑津田 ㉒勝占 ㉓多家良

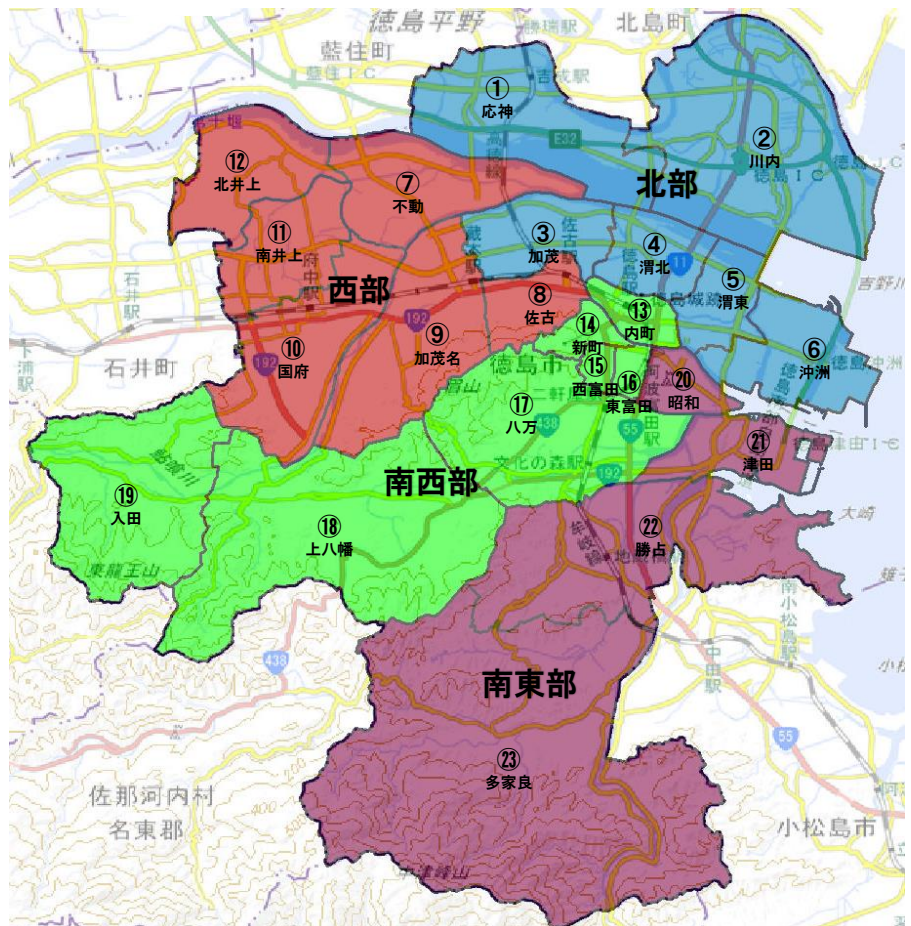


参考 住民基本台帳人口 20歳以上人口  
 (令和4年8月1日現在)

総数	208,789(人)	100.0%
北部	73,222	35.1%
西部	51,060	24.5%
南西部	44,675	21.4%
南東部	39,832	19.1%

n=686

徳島市 地域区分図

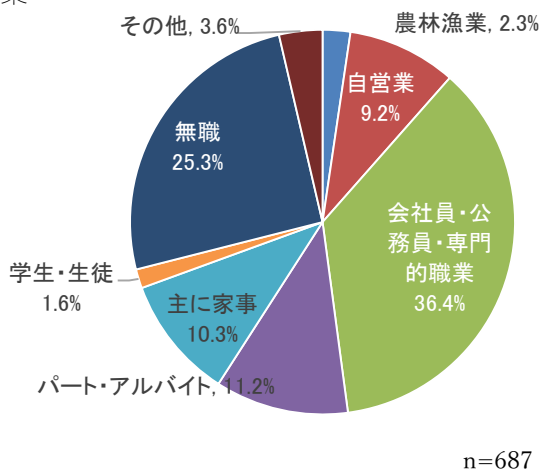


問3：職業・勤め先【それぞれ1つに○】

職 業	勤め先／通学先
①農林漁業 ②自営業 ③会社員・公務員・専門的職業 ④パート・アルバイト ⑤主に家事 ⑥学生・生徒 ⑦無職 ⑧その他	①徳島市内 ②鳴門市 ③小松島市 ④阿南市 ⑤吉野川市 ⑥板野郡 ⑦その他 ⑧勤めていない・通学していない

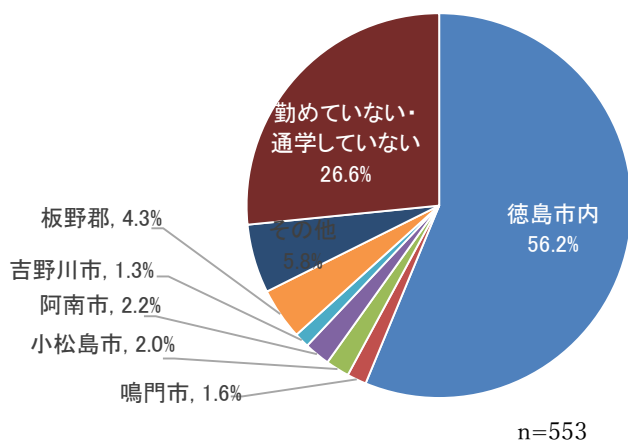
総数	687(人)	100.0%
農林漁業	16	2.3%
自営業	63	9.2%
会社員・公務員・専門的職業	250	36.4%
パート・アルバイト	77	11.2%
主に家事	71	10.3%
学生・生徒	11	1.6%
無職	174	25.3%
その他	25	3.6%

<職業>



総数	553(人)	100.0%
徳島市内	311	56.2%
鳴門市	9	1.6%
小松島市	11	2.0%
阿南市	12	2.2%
吉野川市	7	1.3%
板野郡	24	4.3%
その他	32	5.8%
勤めていない・通学していない	147	26.6%

<勤め先／通学先>

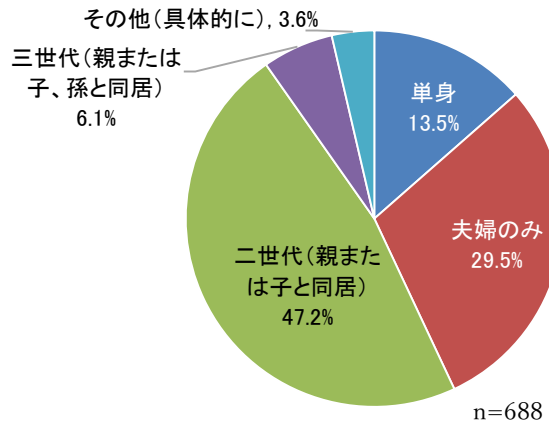


問4：家族構成【1つに○】

- ①単身 ②夫婦のみ ③二世世代（親または子と同居） ④三世代（親または子、孫と同居）  
⑤その他

総数	688(人)	100.0%
単身	93	13.5%
夫婦のみ	203	29.5%
二世世代(親または子と同居)	325	47.2%
三世代(親または子、孫と同居)	42	6.1%
その他(具体的に)	25	3.6%

<家族構成>

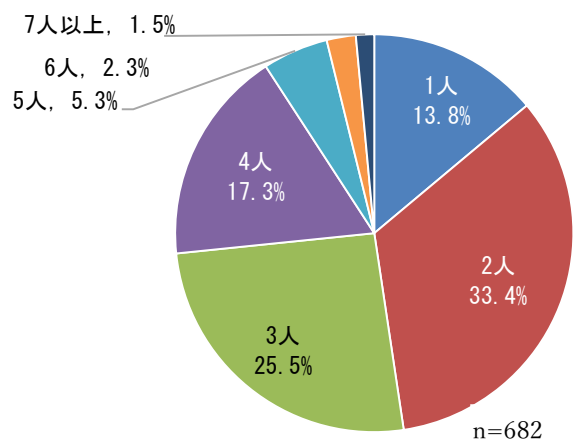


問5：世帯人数【人数記入】

ご家族の世帯人数  人

総数	682(人)	100.0%
1人	94	13.8%
2人	228	33.4%
3人	174	25.5%
4人	118	17.3%
5人	36	5.3%
6人	16	2.3%
7人	10	1.5%

<世帯人数>

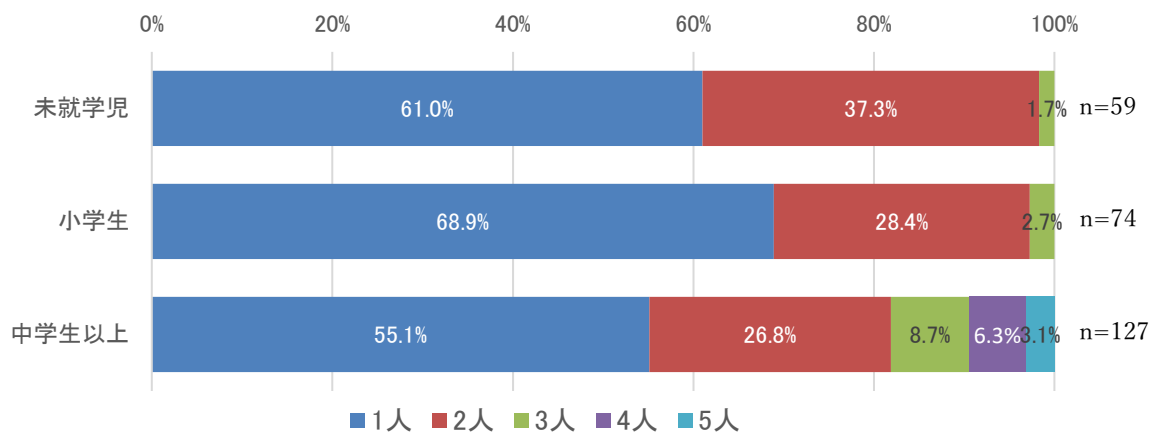


問6：18歳未満の人数

未就学児（0～6歳）	人
小学生（7～12歳）	人
中学生以上（13歳以上）	人

< 18歳未満人数 >

	総数	1人	2人	3人	4人	5人	6人
未就学児	59(人)	36	22	1			
	100.0%	61.0%	37.3%	1.7%			
小学生	74(人)	51	21	2			
	100.0%	68.9%	28.4%	2.7%			
中学生以上	127(人)	70	34	11	8	4	
	100.0%	55.1%	26.8%	8.7%	6.3%	3.1%	

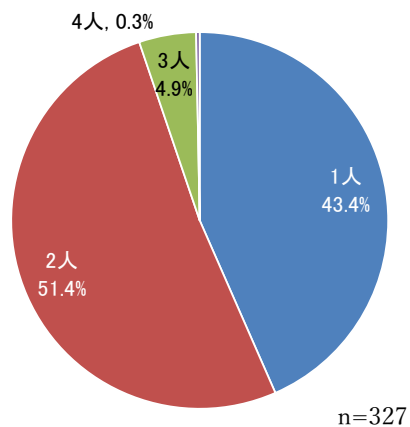


問7：65歳以上の人数

65歳以上のご家族の人数	人
--------------	---

< 65歳以上の人数 >

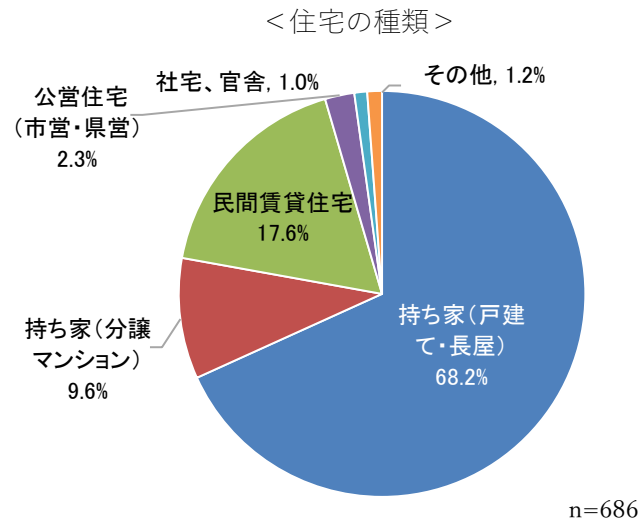
総数	327(人)	100.0%
1人	142	43.4%
2人	168	51.4%
3人	16	4.9%
4人	1	0.3%



### 3-2 現在の住まいについて

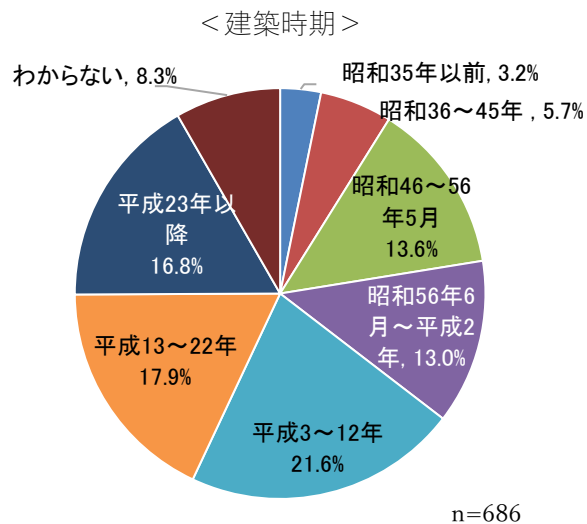
問 8：住宅の種類【1つに○】

- ①持ち家（戸建て・長屋） ②持ち家（分譲マンション）  
 ③民間賃貸住宅 ④公営住宅（市営・県営） ⑤社宅、官舎 ⑥その他



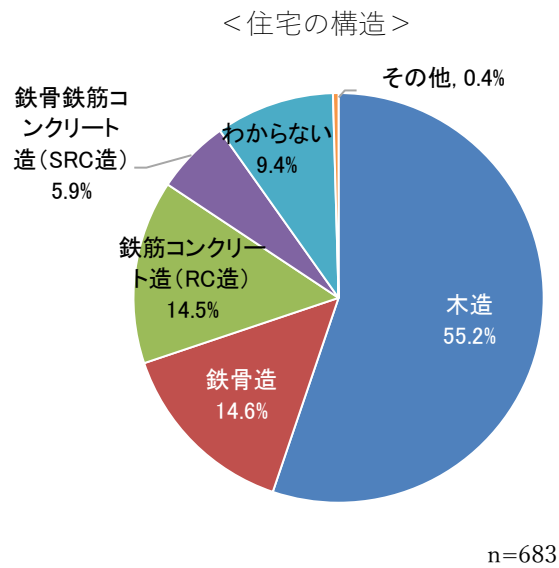
問 9：建築時期【1つに○】

- ①昭和 35 年以前 ②昭和 36～45 年 ③昭和 46～56 年 5 月 ④昭和 56 年 6 月～平成 2 年  
 ⑤平成 3～12 年 ⑥平成 13～22 年 ⑦平成 23 年以降 ⑧わからない



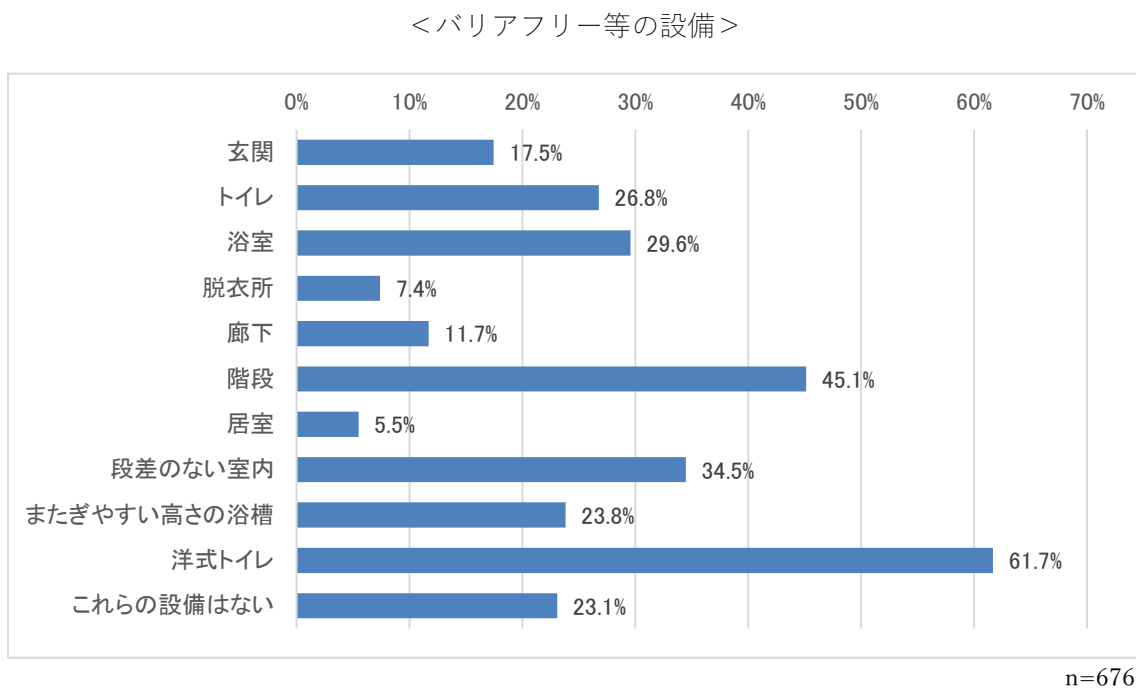
問 10：住宅の構造【1つに○】

- ①木造 ②鉄骨造 ③鉄筋コンクリート造（RC造） ④鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）  
 ⑤わからない ⑥その他



問 11：バリアフリー等の設備【設置設備すべてに○】

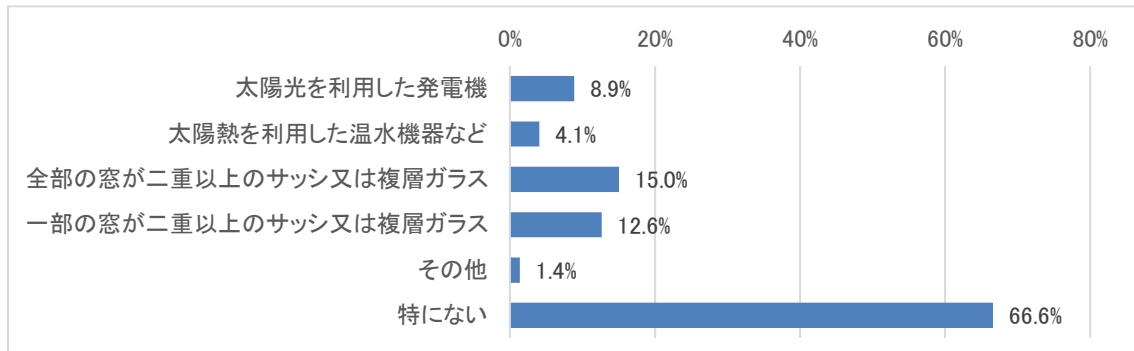
- ・手すり設置箇所 ①玄関 ②トイレ ③浴室 ④脱衣所 ⑤廊下 ⑥階段 ⑦居室  
 ・その他設備 ⑧段差のない室内 ⑨またぎやすい高さの浴槽 ⑩洋式トイレ  
 ⑪これらの設備はない



問 12：省エネルギーの設備【設置設備すべてに○】

- ①太陽光を利用した発電機 ②太陽熱を利用した温水機器など  
③全部の窓が二重以上のサッシ又は複層ガラス  
④一部の窓が二重以上のサッシ又は複層ガラス ⑤その他 ⑥特にない

<省エネルギーの設備>



n=665

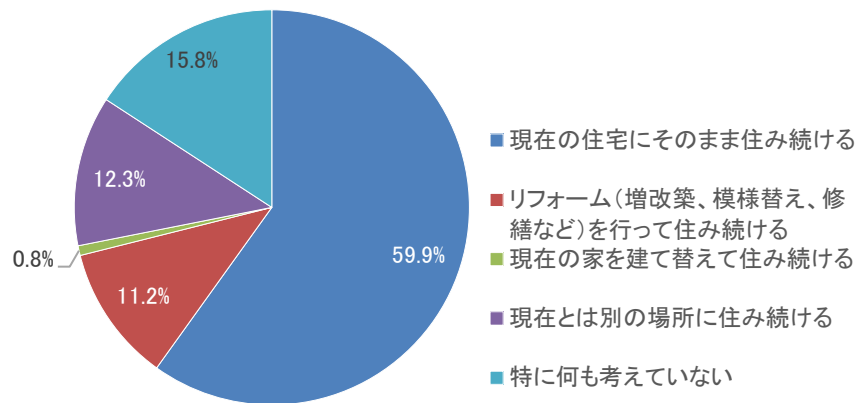


### 3-3 これからの住まい方について

問 13：住み続け・住替えなどについての考え【1つに○】

- ①現在の住宅にそのまま住み続ける ⇒問 14 へお進みください。
- ②リフォーム（増改築、模様替え、修繕など）を行って住み続ける } ⇒ (1) についても  
 ③現在の家を建て替えて住み続ける } お答えください。
- ④現在とは別の場所に住み続ける ⇒ (1)、(2) についてもお答えください
- ⑤特に何も考えていない ⇒問 14 へお進みください)

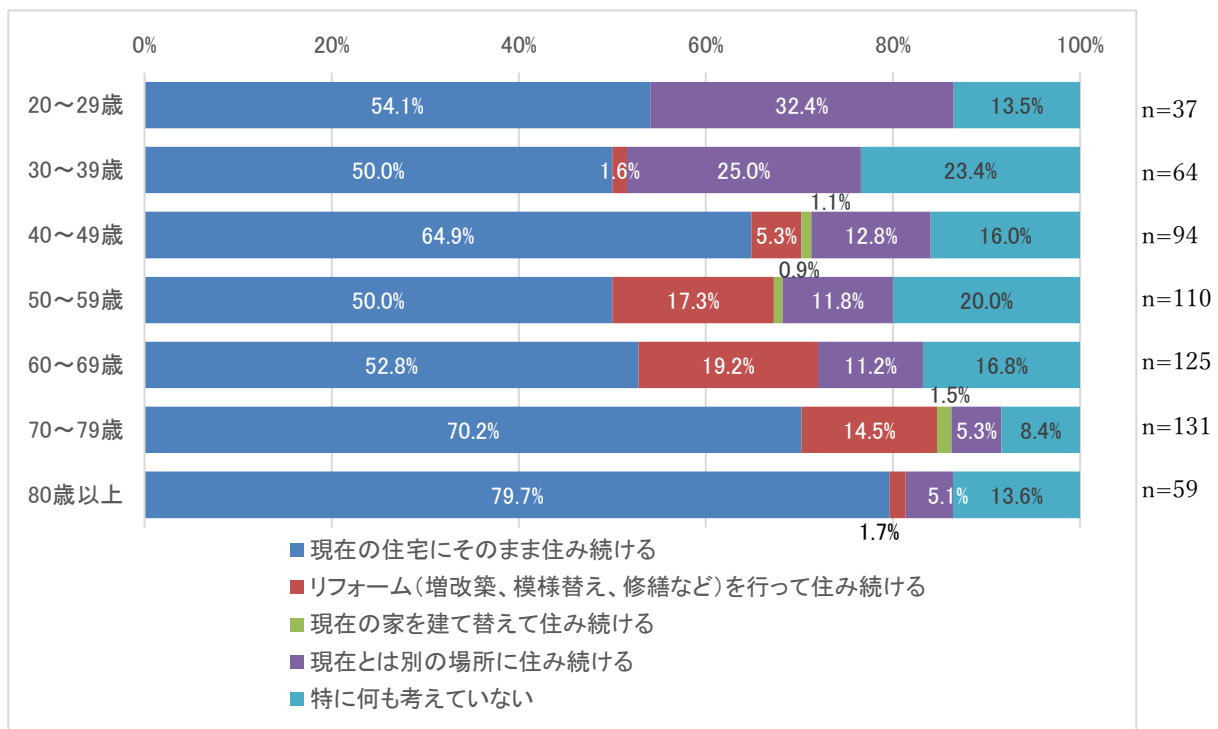
<住み続け・住替えなどについての考え>



n=626

問 13：(クロス集計) 住み続け・建て替え×年齢

<住み続け・建て替え×年齢>

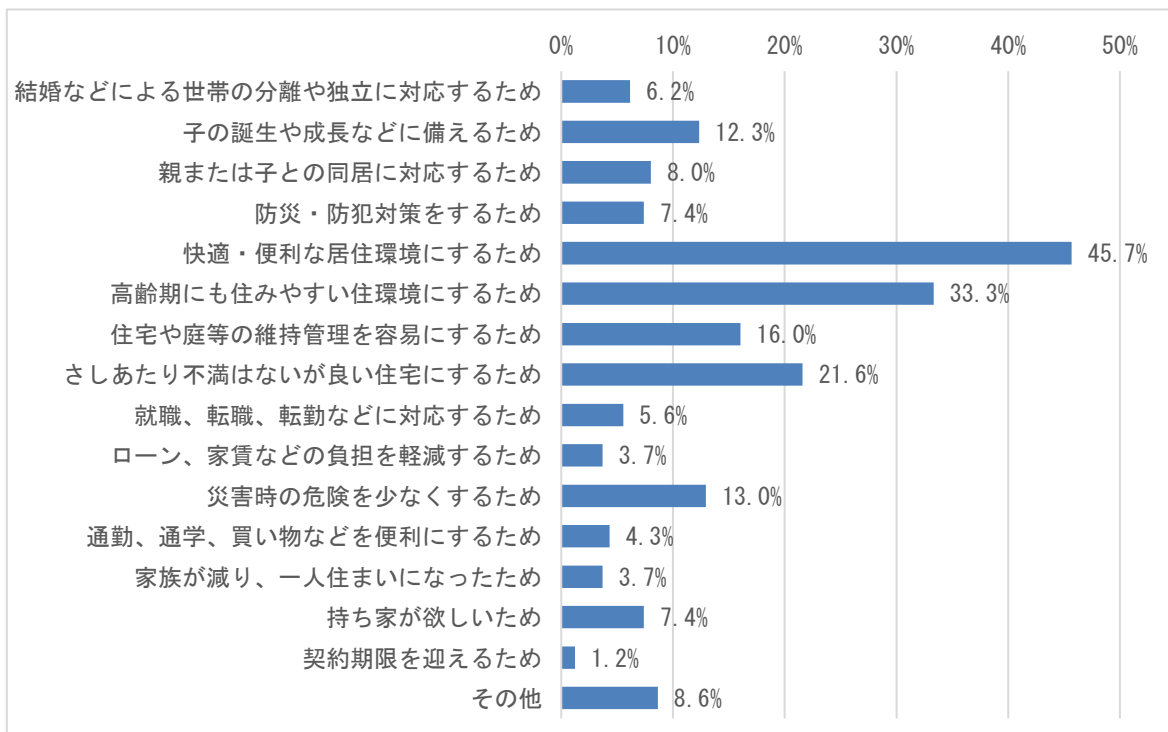


(1) 建て替えやリフォーム、住み替えを行う目的【3つまで○】

(問13で「②～④」に○をつけた方)

- ①結婚などによる世帯の分離や独立に対応するため ②子の誕生や成長などに備えるため  
 ③親または子との同居に対応するため ④防災・防犯対策をするため  
 ⑤快適・便利な居住環境にするため ⑥高齢期にも住みやすい住環境にするため  
 ⑦住宅や庭等の維持管理を容易にするため ⑧さしあたり不満はないが良い住宅にするため  
 ⑨就職、転職、転勤などに対応するため ⑩ローン、家賃などの負担を軽減するため  
 ⑪災害時の危険を少なくするため ⑫通勤、通学、買い物などを便利にするため  
 ⑬家族が減り、一人住まいになったため ⑭持ち家が欲しいため  
 ⑮契約期限を迎えるため ⑯その他

<建て替えやリフォーム、住み替えを行う目的>



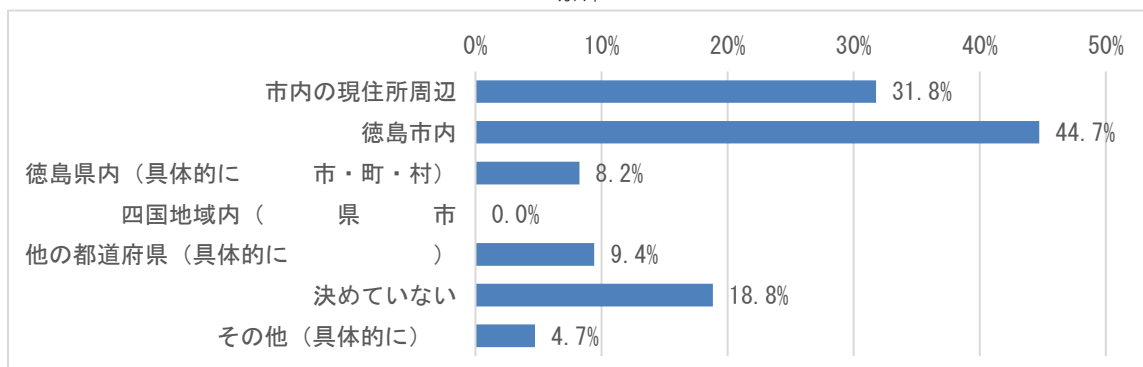
n=162

(2) 住みかえる条件【あてはまるもの全てに○】

(問 13 で「④現在とは別の場所に住み替える」に○をつけた方)

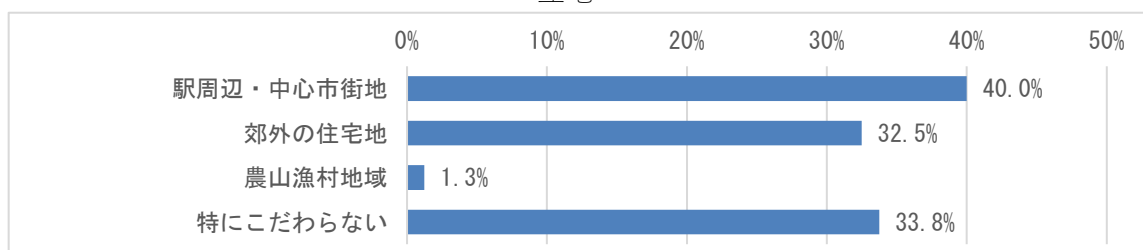
ア 場所	①市内の現住所周辺 ②徳島市内 ③徳島県内 (具体的に 市・町・村) ④四国地域内 ( 県 市町村) ⑤他の都道府県 (具体的に ) ⑥決めていない ⑦その他
イ 立地	①駅周辺・中心市街地 ②郊外の住宅地 ③農山漁村地域 ④特にこだわらない
ウ 住宅の種類	①一戸建て持ち家 ②分譲マンション ③民営賃貸住宅 ④公営住宅 (市営・県営) ⑤公社賃貸住宅 ⑥食事や見守りのサービスが付いた高齢者向け賃貸住宅 ⑦有料老人ホームなどの介護付き居住施設 ⑧特別養護老人ホームなどの介護施設 ⑨友人同士などグループで居住する住宅 (グループリビング・シェアハウスなど) ⑩その他

<場所>



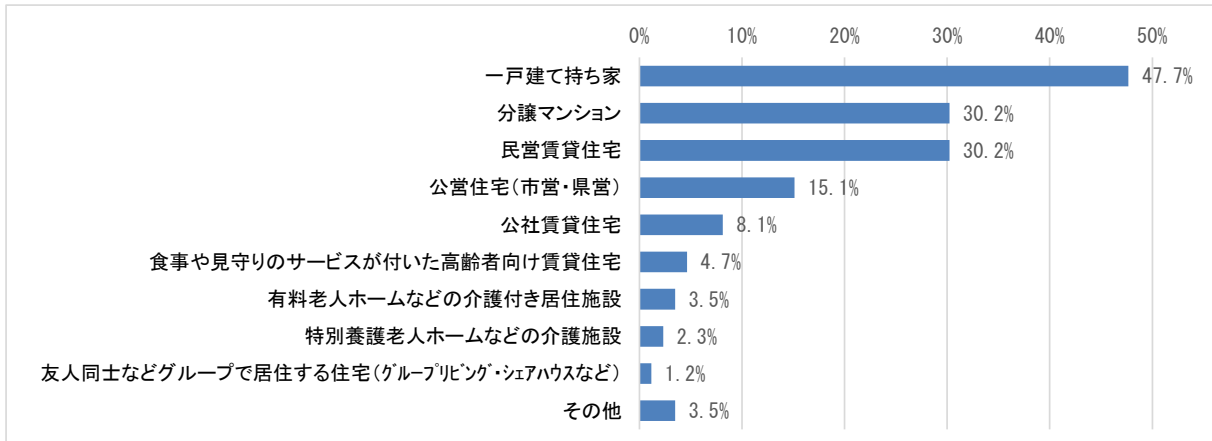
n=85

<立地>



n=80

<住宅の種類>

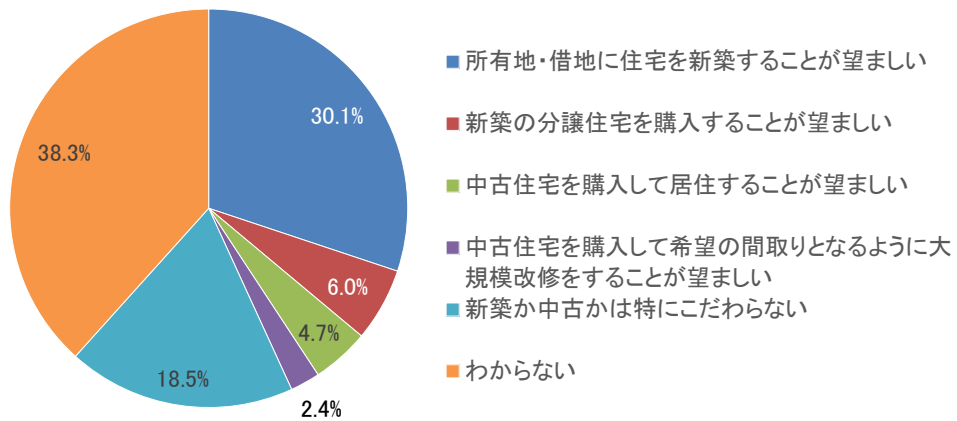


n=86

問 14：新築住宅か中古住宅か

- ①所有地・借地に住宅を新築することが望ましい
- ②新築の分譲住宅を購入することが望ましい
- ③中古住宅を購入して居住することが望ましい
- ④中古住宅を購入して希望の間取りとなるように大規模改修をすることが望ましい
- ⑤新築か中古かは特にこだわらない
- ⑥わからない

<新築住宅か中古住宅か>



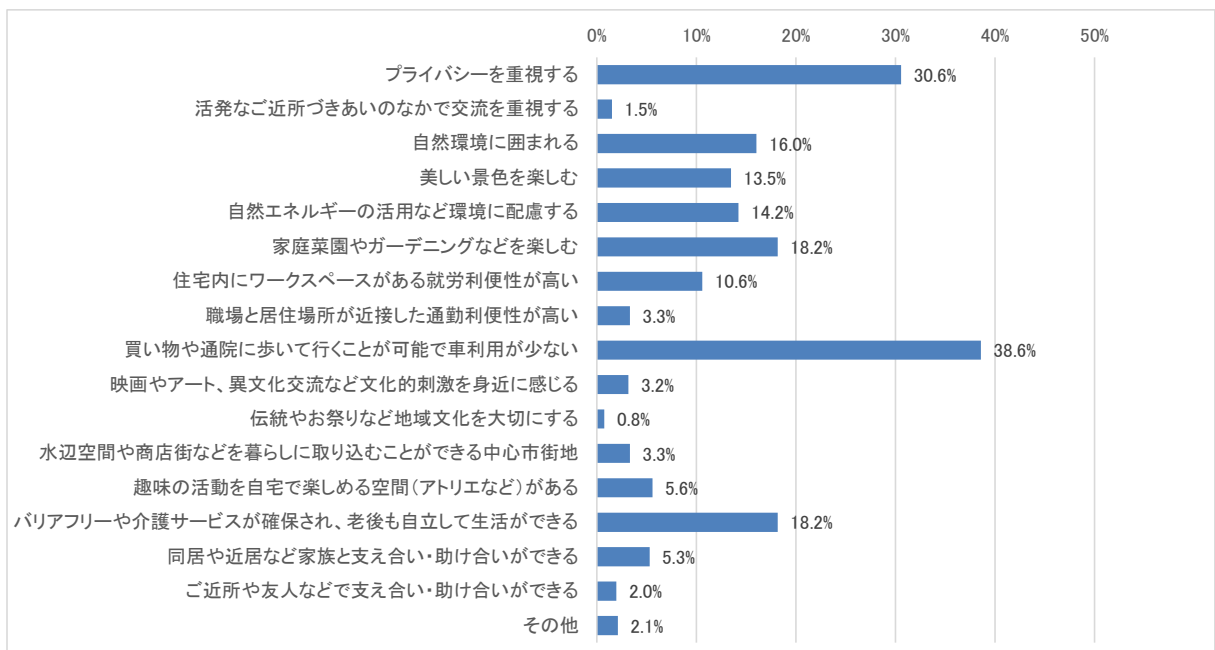
n=621

問 15：今後実現してみたい暮らし方・重視したい項目

【3つまで○】

- ① プライバシーを重視した暮らし方
- ② 活発なご近所づきあいのなかで交流を重視した暮らし方
- ③ 自然環境に囲まれた暮らし方
- ④ 美しい景色を楽しむことができる暮らし方
- ⑤ 自然エネルギーの活用など環境に配慮した暮らし方
- ⑥ 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ暮らし方
- ⑦ 職場と居住場所が近接した通勤利便性の高い暮らし方
- ⑧ 買い物や通院に歩いて行くことが可能で車利用の少ない暮らし方
- ⑨ 映画やアート、異文化交流など文化的刺激を身近に感じる暮らし方
- ⑩ 伝統やお祭りなど地域文化を大切にしたい暮らし方
- ⑪ 水辺空間や商店街などを暮らしに取り込むことのできる中心市街地での暮らし方
- ⑫ 趣味の活動を自宅で楽しめる空間（アトリエなど）のある暮らし方
- ⑬ バリアフリーや介護サービスが確保され、老後も自立して生活のできる暮らし方
- ⑭ 同居や近居など家族と支え合い・助け合いのできる暮らし方
- ⑮ ご近所や友人などで支え合い・助け合いのできる暮らし方
- ⑯ その他 実現してみたい暮らし方のイメージがあればお書きください

< 今後実現してみたい暮らし方・重視したい項目 >

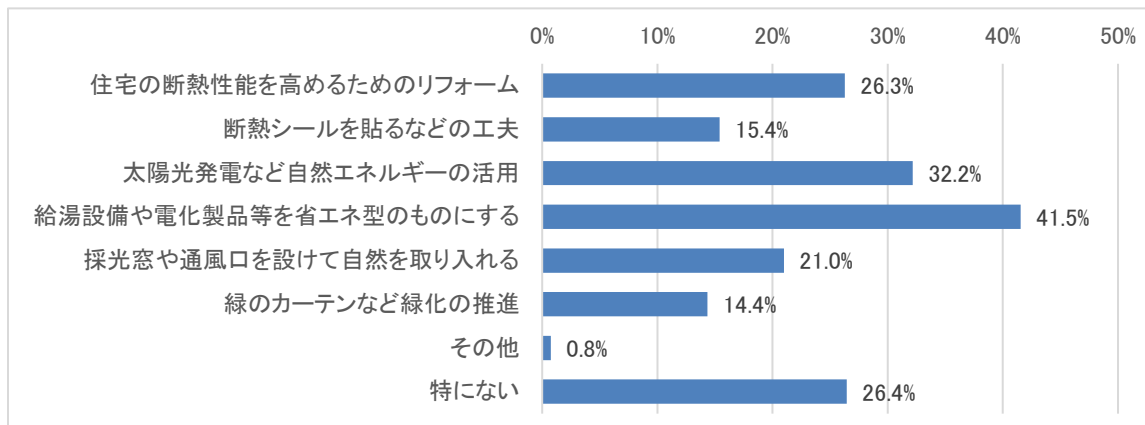


n=661

問 16：今後取り組みたい環境対策【あてはまるもの全てに○】

- ①住宅の断熱性能を高めるためのリフォーム ②断熱シールを貼るなどの工夫  
 ③太陽光発電など自然エネルギーの活用 ④給湯設備や電化製品等を省エネ型のものにする  
 ⑤採光窓や通風口を設けて自然を取り入れる ⑥緑のカーテンなど緑化の推進  
 ⑦その他 ⑧特にない

<今後取り組みたい環境対策>



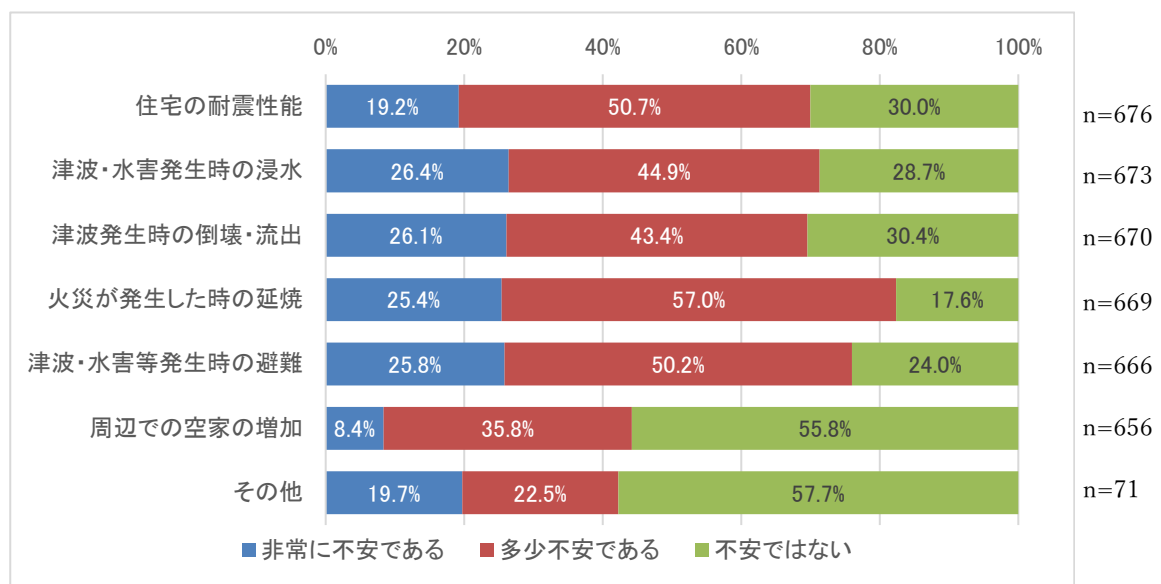
n=662

### 3-4 防災対策について

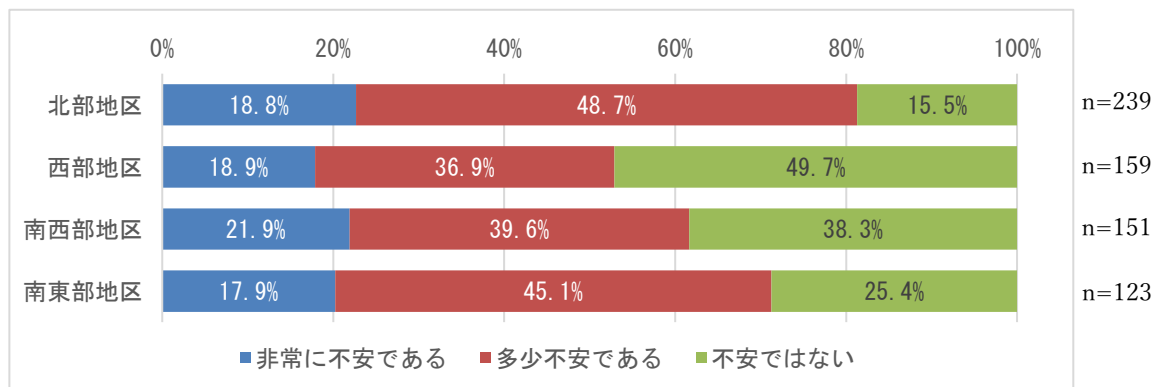
問 17：住宅や住環境の不安

評価項目	不安ではない	多少不安である	非常に不安である
①住宅の耐震性能	3	2	1
②津波・水害発生時の浸水	3	2	1
③津波発生時の倒壊・流出	3	2	1
④火災が発生した時の延焼	3	2	1
⑤津波・水害等発生時の避難	3	2	1
⑥周辺での空家の増加	3	2	1
⑦その他	3	2	1

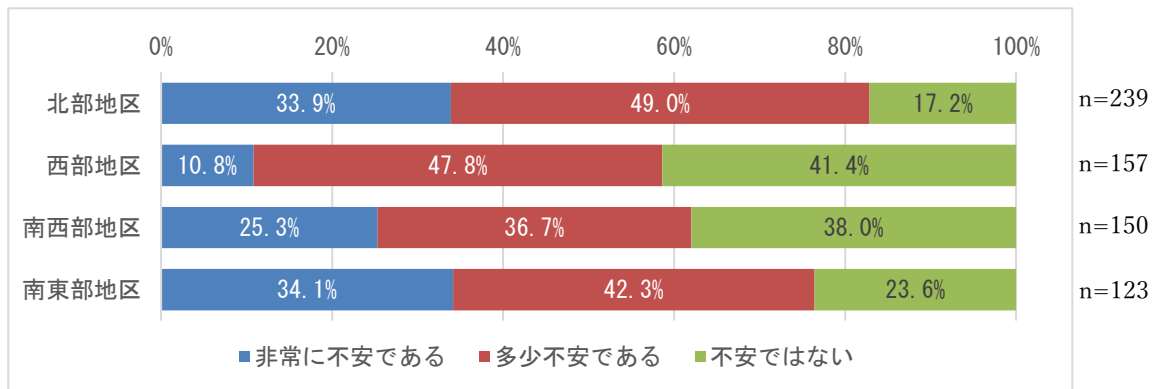
<住宅や住環境の不安>



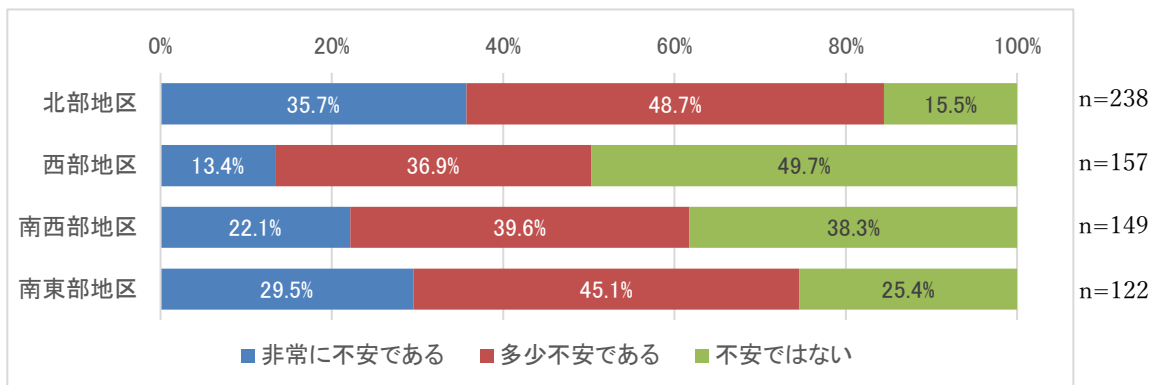
問 17：(クロス集計)：住宅の耐震性能×居住地区



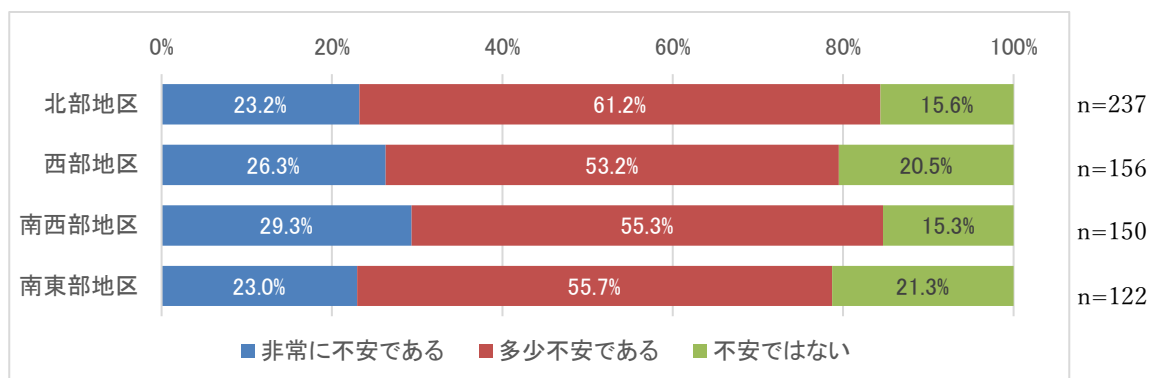
問 17：(クロス集計)：津波・水害発生時の浸水×居住地区



問 17：(クロス集計)：津波発生時の倒壊・流出×居住地区

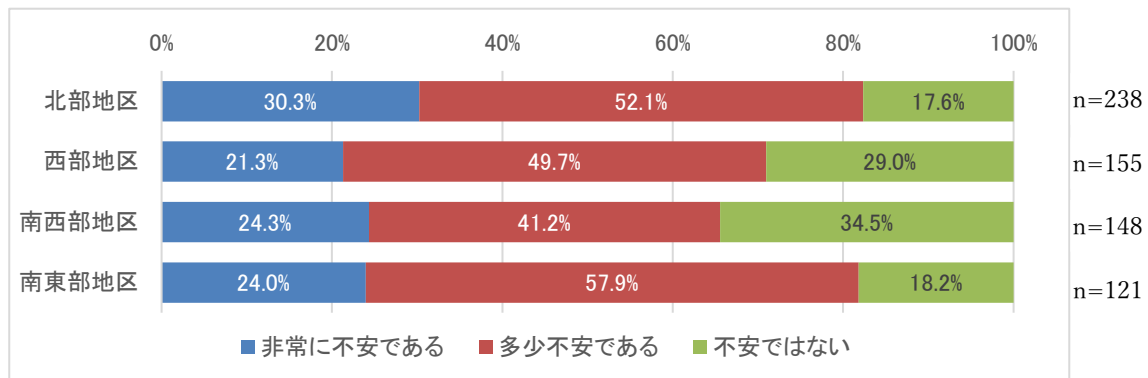


問 17：(クロス集計)：火災が発生した時の延焼×居住地区

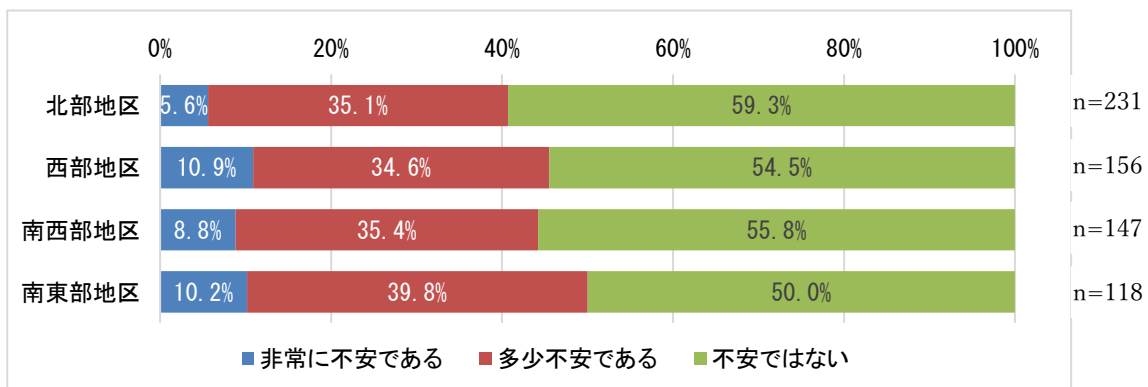




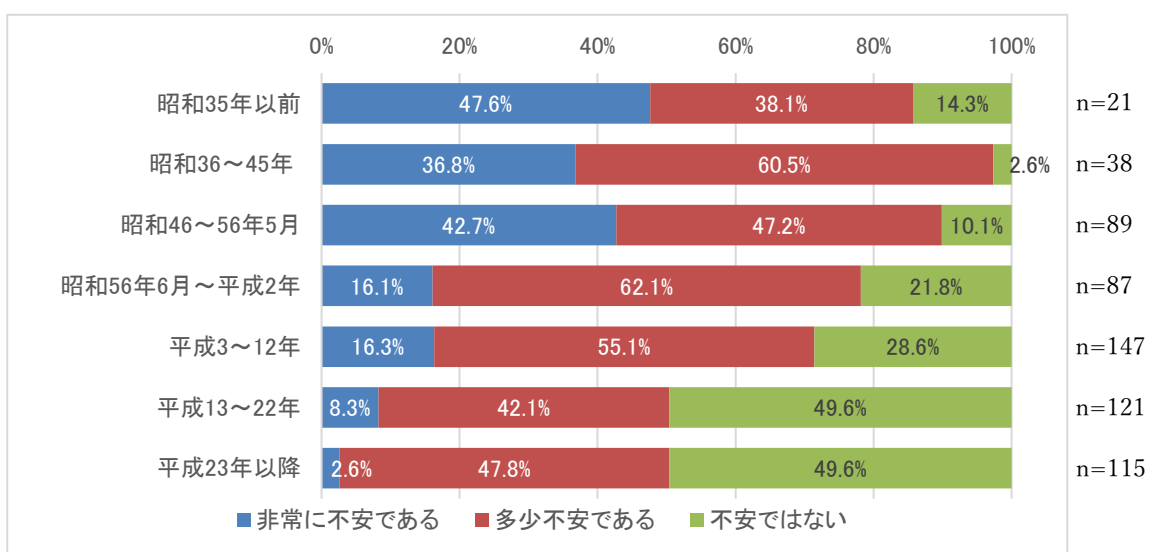
問 17：(クロス集計)：津波・水害等発生時の避難×居住地区



問 17：(クロス集計)：周辺での空家の増加×居住地区



問 17：(クロス集計) 住宅の耐震性能不安×建築時期

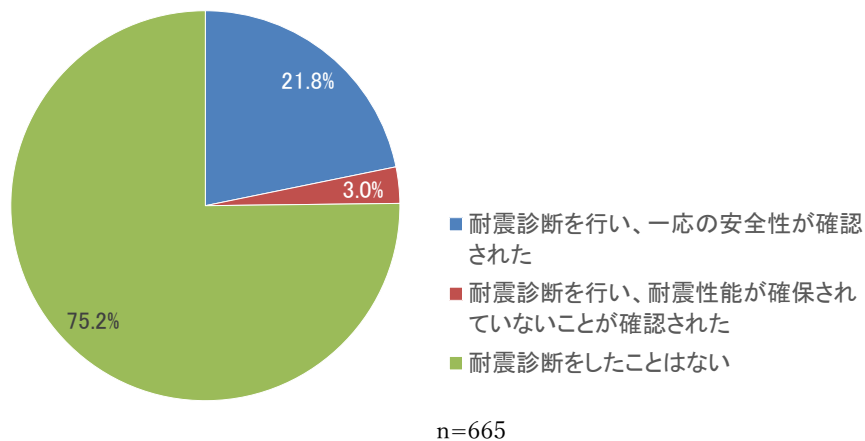


問 18：住宅の耐震性（耐震診断・耐震改修の有無）

（1）耐震診断の有無

- ①耐震診断を行い、一応の安全性が確認された  
 ②耐震診断を行い、耐震性能が確保されていないことが確認された  
 ③耐震診断をしたことはない ⇒ 附問にお答えください

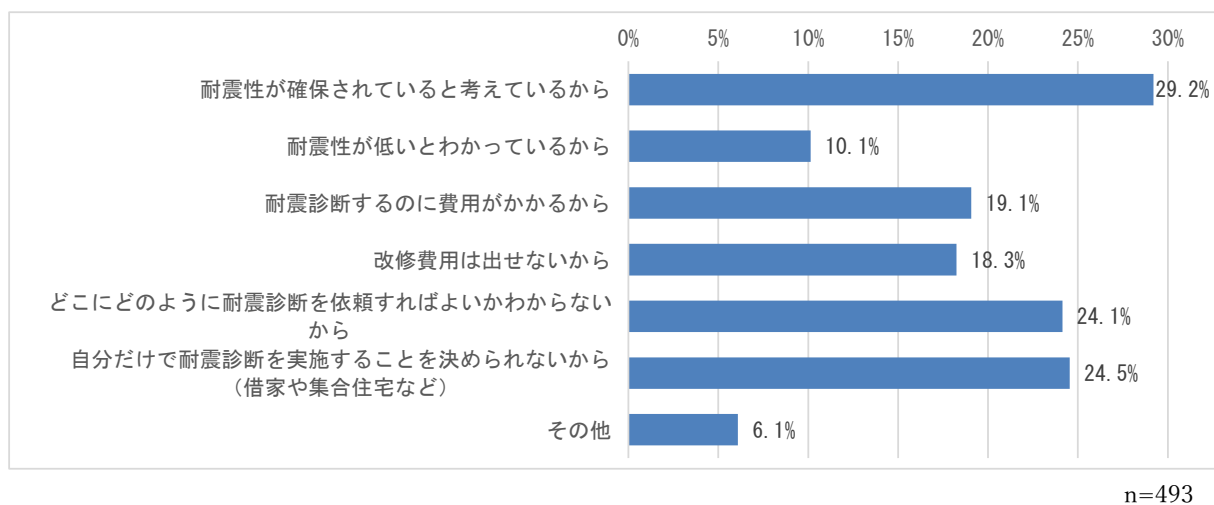
<耐震診断の有無>



問 18：（附問）耐震診断を受けない理由【あてはまるもの全てに○】

- ①耐震性が確保されていると考えているから ②耐震性が低いとわかっているから  
 ③耐震診断するのに費用がかかるから ④改修費用は出せないから  
 ⑤どこにどのように耐震診断を依頼すればよいかわからないから  
 ⑥自分だけで耐震診断を実施することを決められないから（借家や集合住宅など）  
 ⑦その他

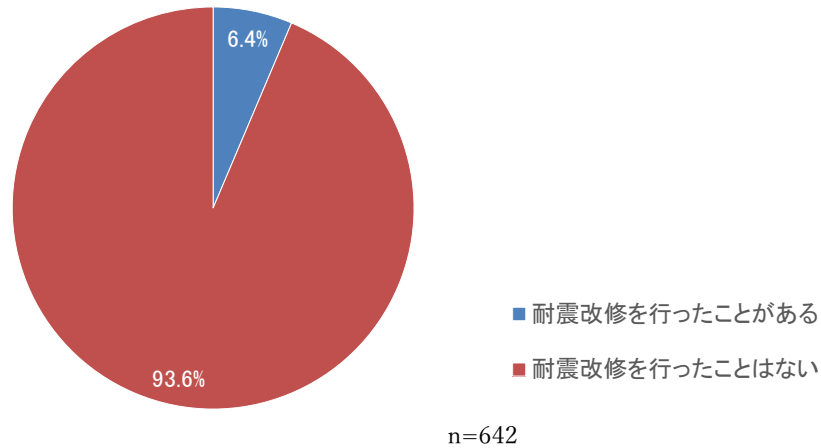
<耐震診断を受けない理由>



(2) 耐震改修の有無

- ①耐震改修を行ったことがある  
 ②耐震改修を行ったことはない ⇒ 附問にお答えください

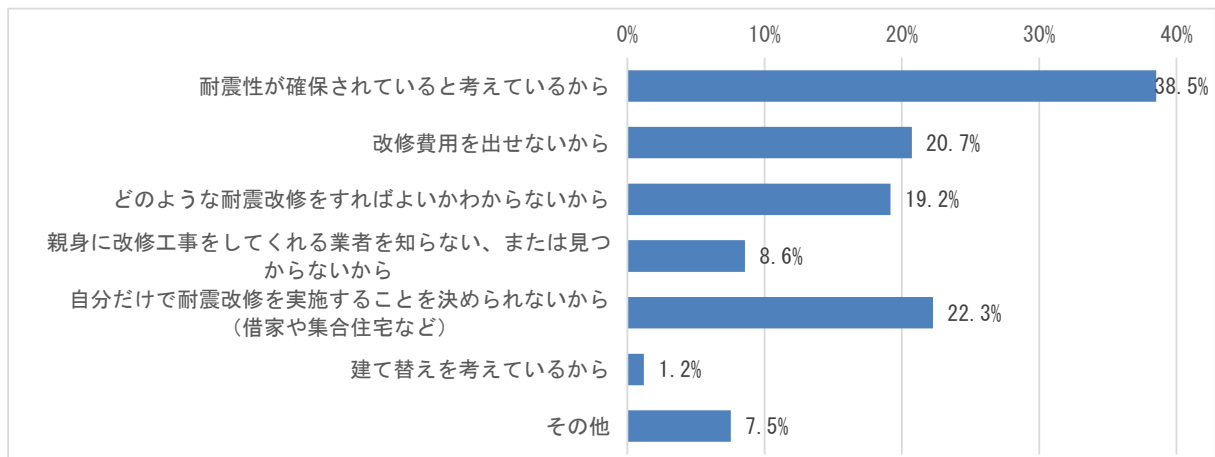
<耐震改修の有無>



問 18：(附問) 耐震改修を行わない理由【あてはまるもの全てに○】

- ① 耐震性が確保されていると考えているから ② 改修費用を出せないから  
 ③ どのような耐震改修をすればよいかわからないから  
 ④ 親身に改修工事をしてくれる業者を知らない、または見つからないから  
 ⑤ 自分だけで耐震改修を実施することを決められないから (借家や集合住宅など)  
 ⑥ 建て替えを考えているから ⑦ その他

<耐震改修を行わない理由>



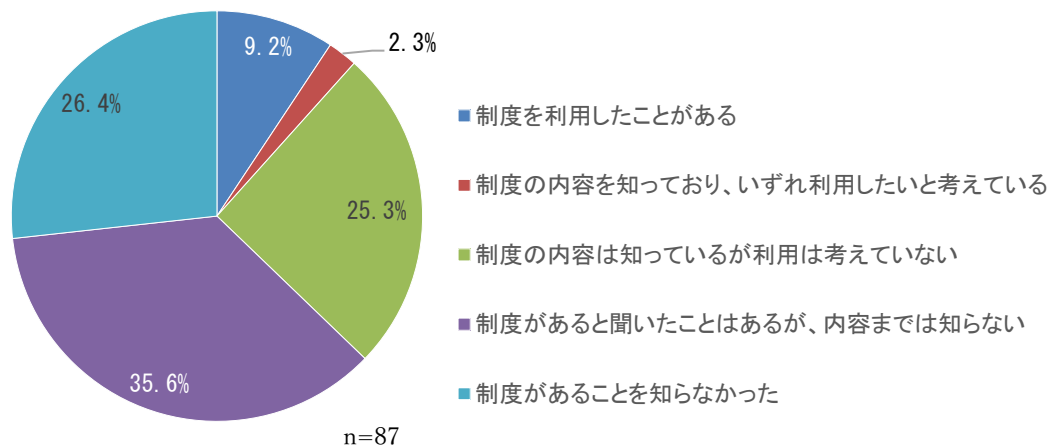
n=584

問 19：支援制度の利用（平成 12 年 5 月 31 日以前着工の木造住宅にお住まいの方）

（1）耐震診断の支援制度の認知【1つに○】

- ①制度を利用したことがある
- ②制度の内容を知っており、いずれ利用したいと考えている
- ③制度の内容は知っているが利用は考えていない
- ④制度があると聞いたことはあるが、内容までは知らない
- ⑤制度があることを知らなかった

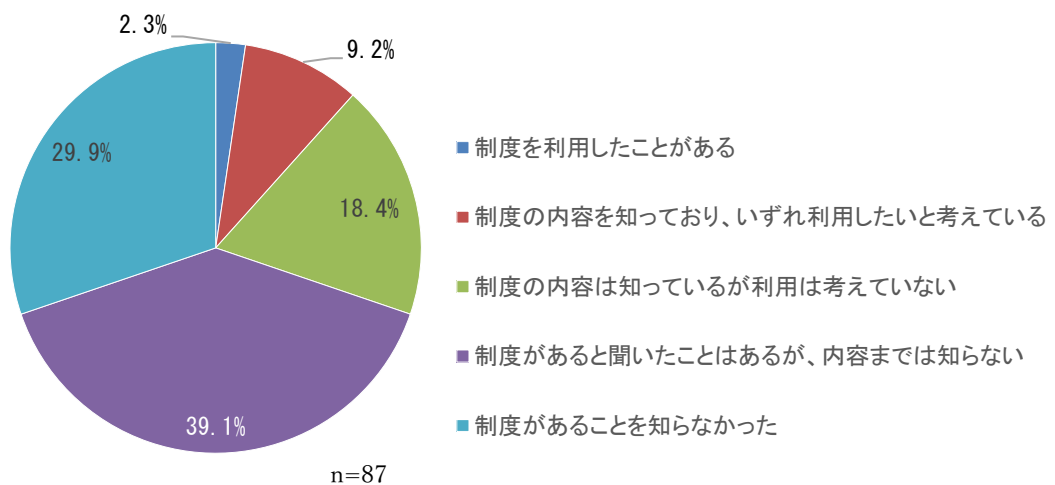
<耐震診断の支援制度の認知>



（2）耐震改修の支援制度の認知【1つに○】

- ① 制度を利用したことがある
- ② 制度の内容を知っており、いずれ利用したいと考えている
- ③ 制度の内容は知っているが利用は考えていない
- ④ 制度があると聞いたことはあるが、内容までは知らない
- ⑤ 制度があることを知らなかった

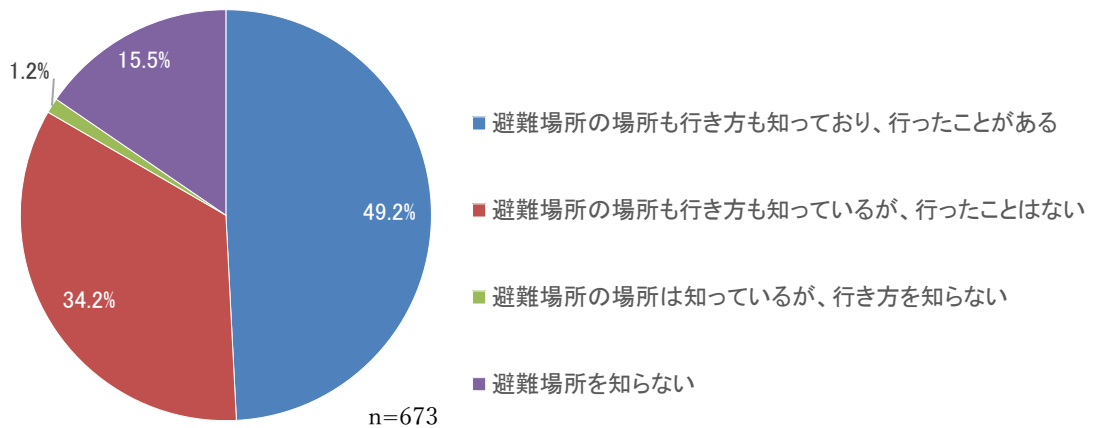
<耐震改修の認知>



問 20：避難場所の認知【1つに○】

- ①避難場所の場所も行き方も知っており、行ったことがある  
 ②避難場所の場所も行き方も知っているが、行ったことはない  
 ③避難場所の場所は知っているが、行き方を知らない ④ 避難場所を知らない

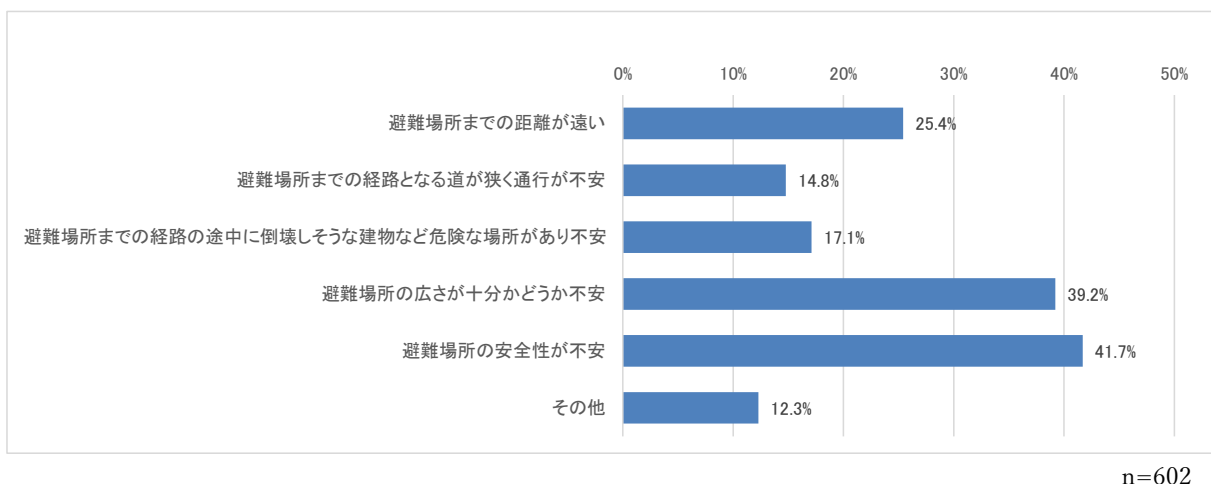
< 避難場所の認知 >



問 21：避難場所や避難経路に対する不安【あてはまるもの全てに○】

- ①避難場所までの距離が遠い ②避難場所までの経路となる道が狭く通行が不安  
 ③避難場所までの経路の途中に倒壊しそうな建物など危険な場所があり不安  
 ④避難場所の広さが十分かどうか不安 ⑤避難場所の安全性が不安 ⑥その他

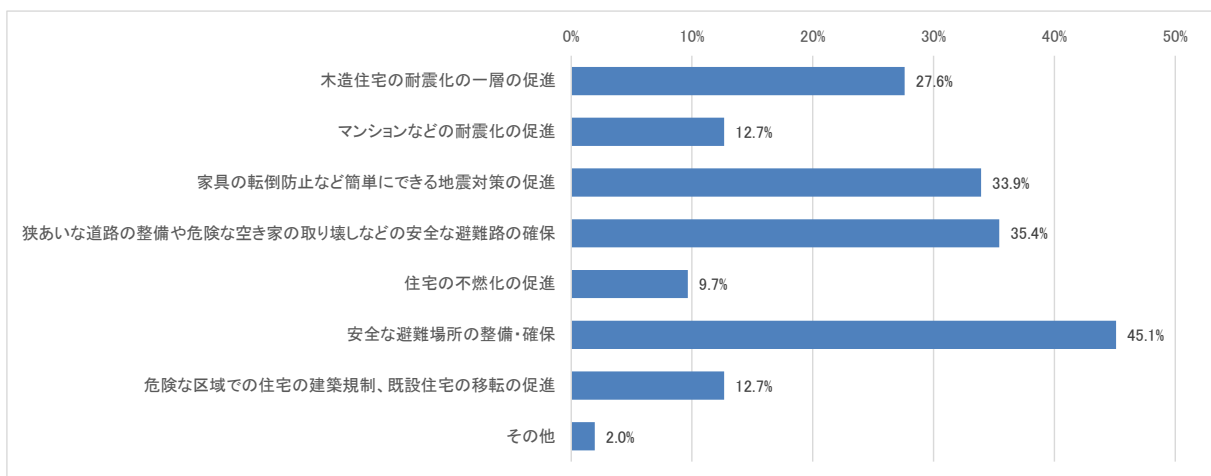
< 避難場所や避難経路に対する不安 >



問 22：今後進めるべき住宅や住環境における地震・津波対策【2つに○】

- ①木造住宅の耐震化の一層の促進
- ②マンションなどの耐震化の促進
- ③家具の転倒防止など簡単にできる地震対策の促進
- ④狭あいな道路の整備や危険な空き家の取り壊しなどの安全な避難路の確保
- ⑤住宅の不燃化の促進
- ⑥安全な避難場所の整備・確保
- ⑦危険な区域での住宅の建築規制、既設住宅の移転の促進
- ⑧その他

<今後進めるべき住宅や住環境における地震・津波対策>



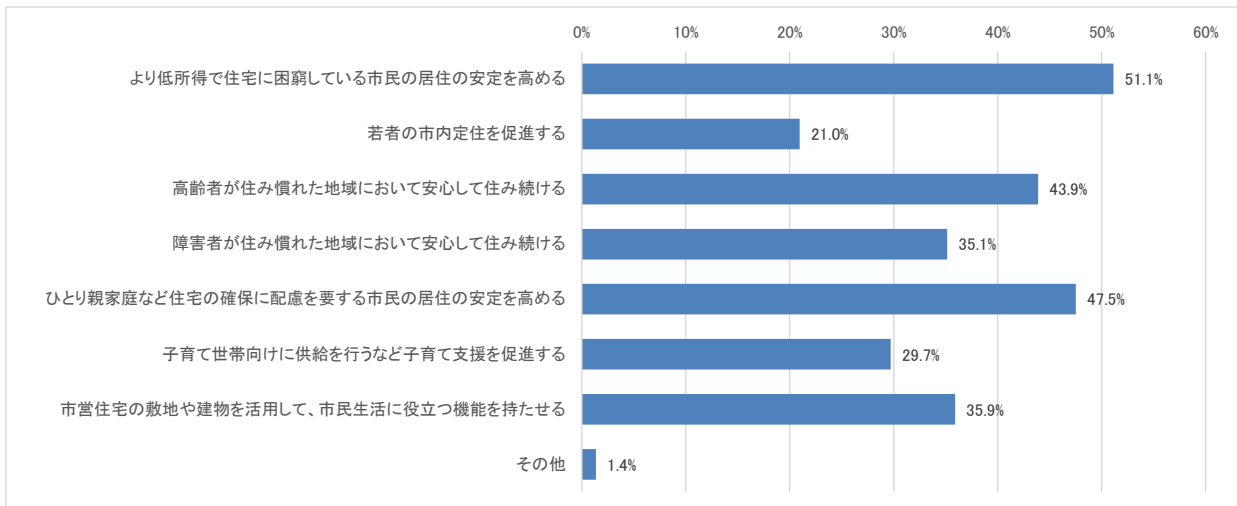
n=663

### 3-5 市営住宅について

問 23：市営住宅の今後の役割【あてはまるもの全てに○】

- ①より低所得で住宅に困窮している市民の居住の安定を高める役割
- ②若者の市内定住を促進するための役割
- ③高齢者が住み慣れた地域において安心して住み続けるための役割
- ④障害者が住み慣れた地域において安心して住み続けるための役割
- ⑤ひとり親家庭など住宅の確保に配慮を要する市民の居住の安定を高める役割
- ⑥子育て世帯向けに供給を行うなど子育て支援を促進する役割
- ⑦市営住宅の敷地や建物を活用して、地域住民の憩いの場や交流の場、災害発生時の避難場所や子育て支援拠点、介護サービス供給拠点など、市民生活に役立つ機能を持たせる役割
- ⑧その他

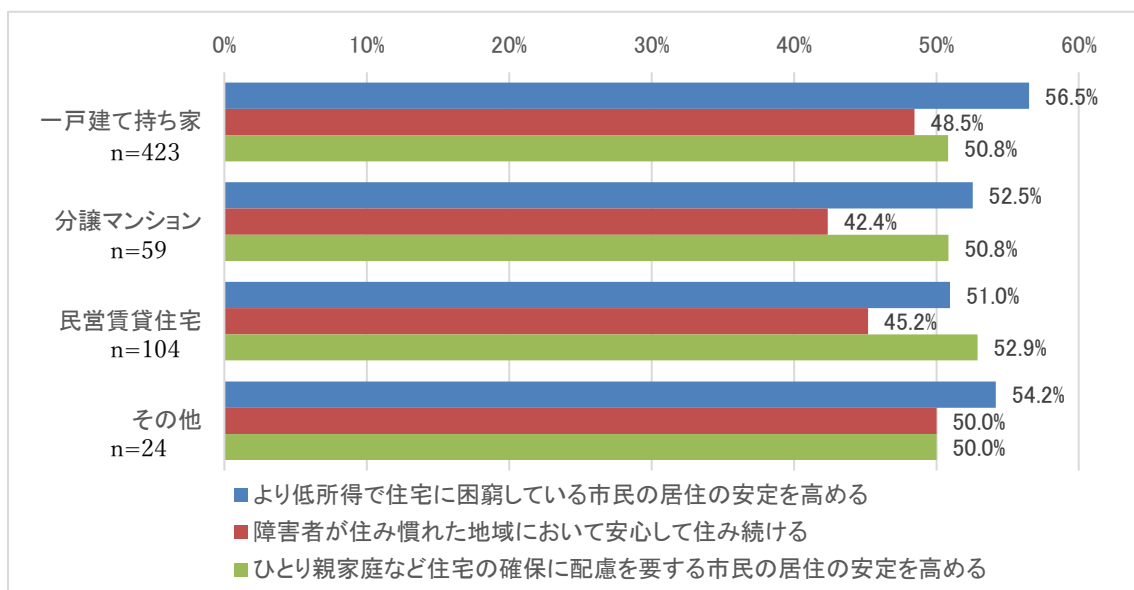
<市営住宅の今後の役割>



n=615

問 23：(クロス集計) 市営住宅の今後の役割×住宅の種類

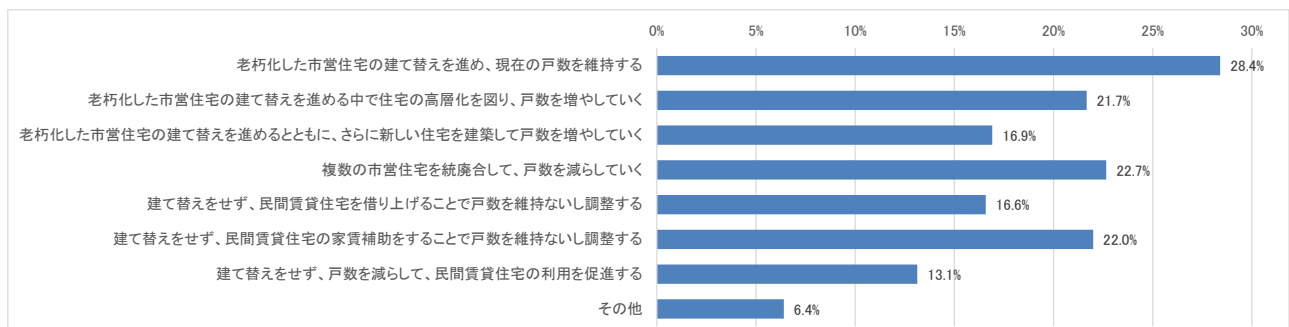
<市営住宅の今後の役割×住宅の種類>



問 24：市営住宅の建て替えのあり方【あてはまるもの全てに○】

- ①老朽化した市営住宅の建て替えを進め、現在の戸数を維持する
- ②老朽化した市営住宅の建て替えを進める中で住宅の高層化を図り、戸数を増やしていく
- ③老朽化した市営住宅の建て替えを進めるとともに、さらに新しい住宅を建築して戸数を増やしていく
- ④複数の市営住宅を統廃合して、戸数を減らしていく
- ⑤建て替えをせず、民間賃貸住宅を借り上げることで戸数を維持ないし調整する
- ⑥建て替えをせず、民間賃貸住宅の家賃補助をすることで戸数を維持ないし調整する
- ⑦建て替えをせず、戸数を減らして、民間賃貸住宅の利用を促進する
- ⑧その他

<市営住宅の建て替えのあり方>



n=609

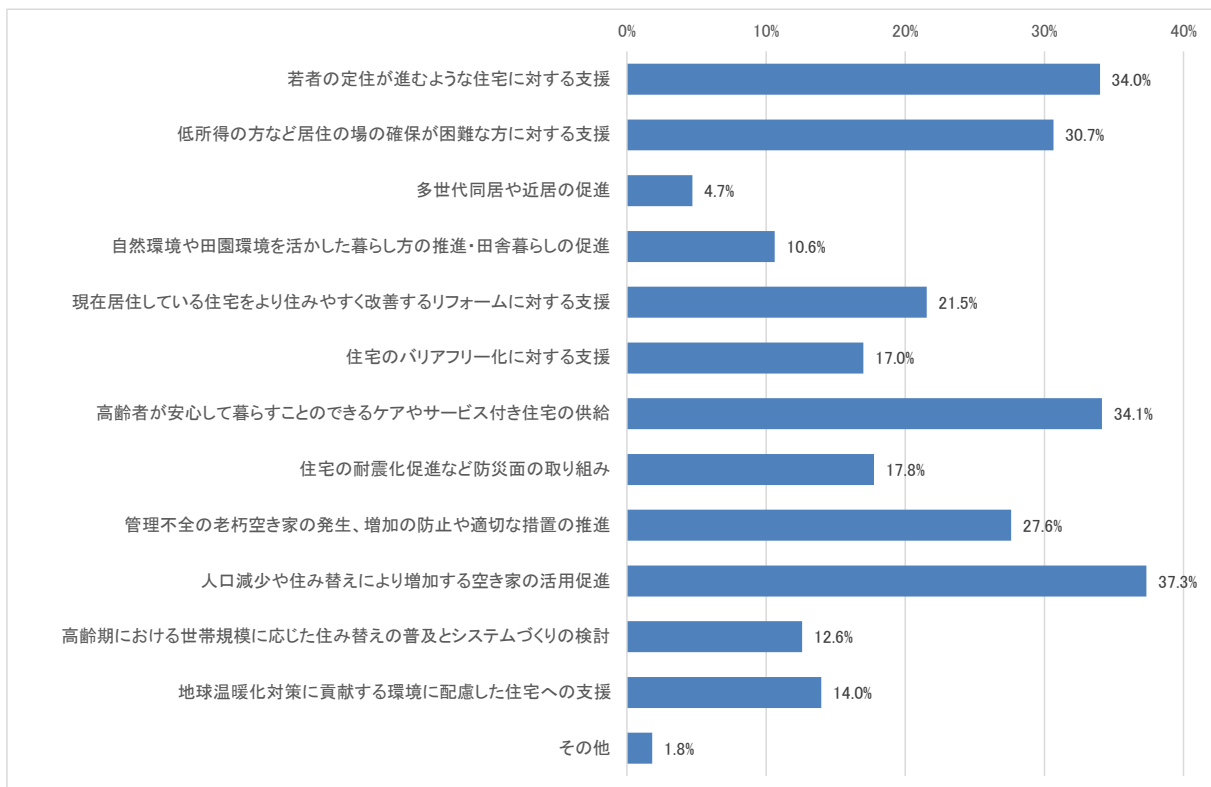


### 3-6 住宅政策に必要な視点について

問 25：住宅政策に必要な視点【3つまで○】

- ①若者の定住が進むような住宅に対する支援
- ②低所得の方など居住の場の確保が困難な方に対する支援
- ③多世代同居や近居の促進
- ④自然環境や田園環境を活かした暮らし方の推進・田舎暮らしの促進
- ⑤現在居住している住宅をより住みやすく改善するリフォームに対する支援
- ⑥住宅のバリアフリー化に対する支援
- ⑦高齢者が安心して暮らすことのできるケアやサービス付き住宅の供給
- ⑧住宅の耐震化促進など防災面の取り組み
- ⑨管理不全の老朽空き家の発生、増加の防止や適切な措置の推進
- ⑩人口減少や住み替えにより増加する空き家の活用促進
- ⑪高齢期における世帯規模に応じた住み替えの普及とシステムづくりの検討
- ⑫その他

<住宅政策に必要な視点>

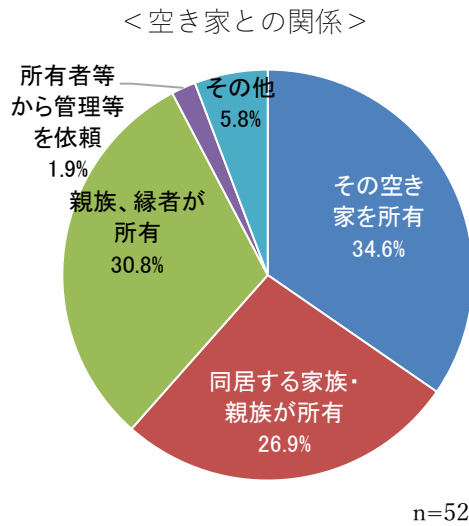


n=659

### 3-7 空き家の所有・管理について

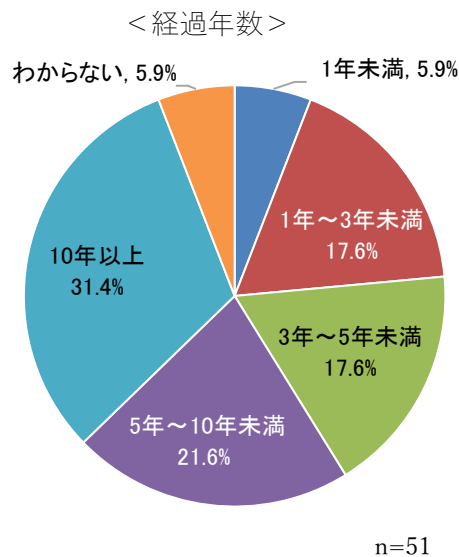
問 26：空き家との関係【1つに○】

- ①その空き家を所有 ②同居する家族・親族が所有 ③親族、縁者が所有  
④所有者等から管理等を依頼 ⑤その他



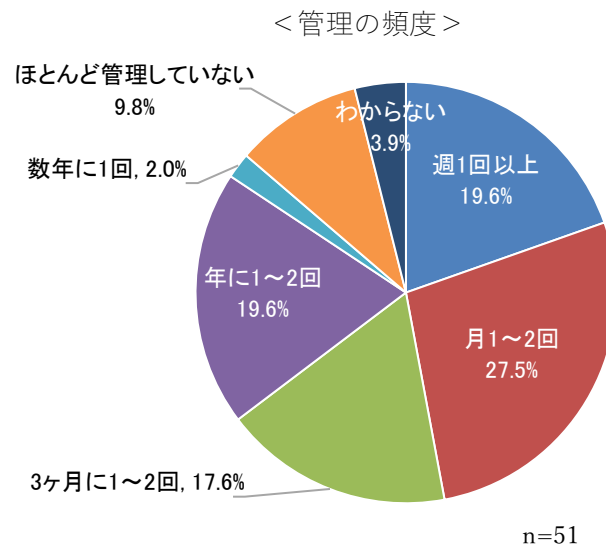
問 27：経過年数【1つに○】

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満 ⑤10年以上  
⑥わからない



問 28：管理の頻度【1つに○】

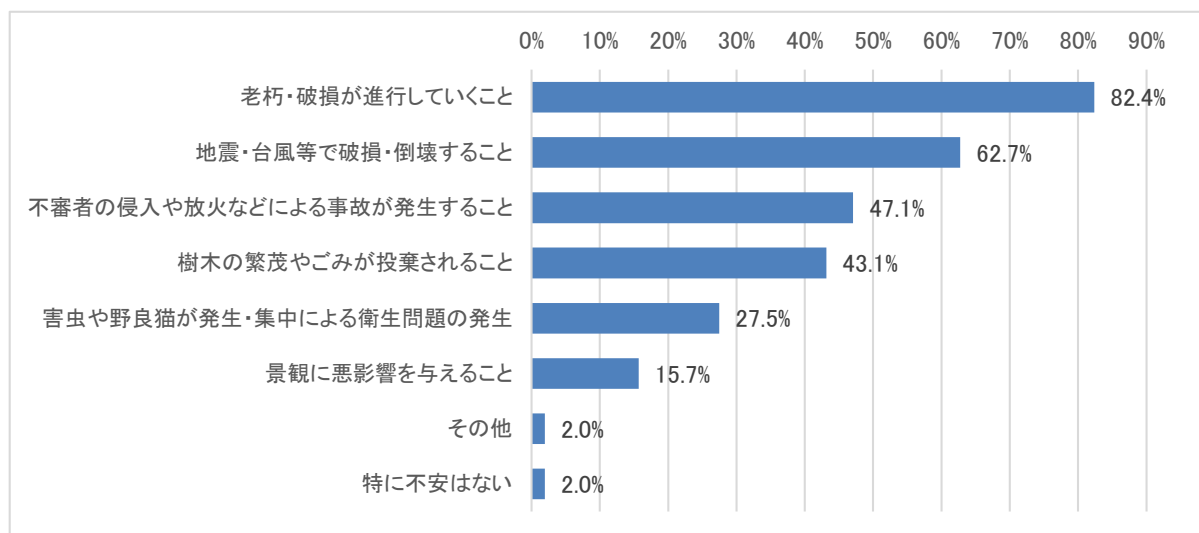
- ①週1回以上 ②月1～2回 ③3ヶ月に1～2回 ④年に1～2回 ⑤数年に1回  
⑥ほとんど管理していない ⑦わからない



問 29：維持・管理の不安【あてはまるもの全てに○】

- ①老朽・破損が進行していくこと ②地震・台風等で破損・倒壊すること  
③不審者の侵入や放火などによる事故が発生すること ④樹木の繁茂やごみが投棄されること  
⑤害虫や野良猫が発生・集中による衛生問題の発生 ⑥景観に悪影響を与えること  
⑦その他 ⑧特に不安はない

<維持・管理の不安>

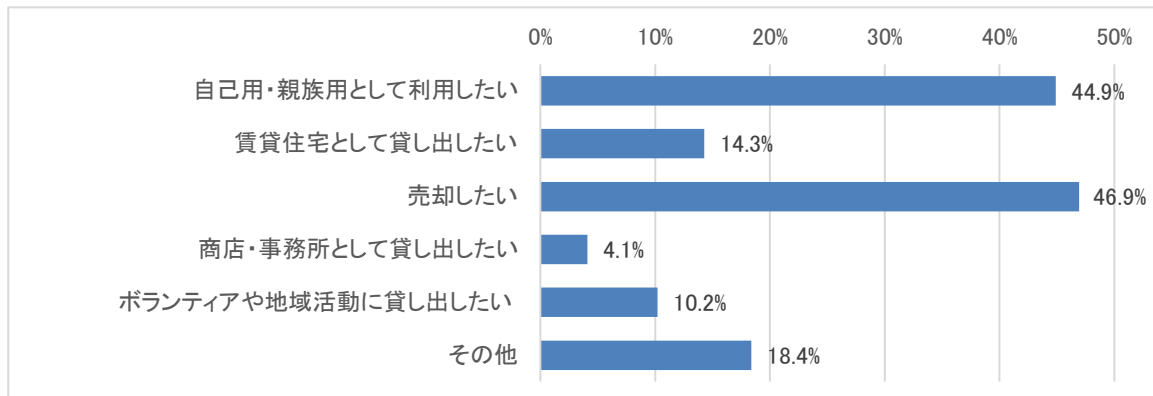


n=51

問 30：今後空き家をどうしたいか【あてはまるもの全てに○】

- ①自己用・親族用として利用したい ②賃貸住宅として貸し出したい ③売却したい  
④商店・事務所として貸し出したい ⑤ボランティアや地域活動に貸し出したい ⑥その他

<今後空き家をどうしたいか>



n=49

### 3-8 自由回答（抜粋）

#### ◎高齢化にともなう空き家の問題など

- 徳島で生まれ育ち、大学で県外に出ても帰ってきました。徳島が好きです。しかし、公的に所有されている中心部の空き地が目立ちます。結局マンション建設などにならないよう広域避難場所や公園の整備等、市民のための街づくりを推進していただきたいと思います。
- 休校など廃校などになった公施設・学校などを利用して老人や個人などに住居をできるようにしたらよい集合住宅・老人ホームみたいな。その他に、他県から移住して来た人などに一時的に住んでもらうとか。
- 空き家、空き地、空き公用地を含め、活用されていない場所(デッドスペースも含め)がもったいない。投資できるものには投資し、少しでも有効活用する、しているアクション、アピールがほしい。
- 現在住んでいる家も築50年以上の木造住宅。この先、空家になる可能性大である。それぞれの地域で空家を利用した場所作りができ、気軽に集まって楽しく過ごすことができれば、身体的にも精神的にも安心した日々が送れると思う。子供から老人までも大切に作る市であって欲しい。
- これから高齢者が増える中で買い物、病院、銀行が利用しやすく健康づくりに取り組める環境があることが大切だと思います。ウォーキングできる道の確保、地域コミュニケーションが取れる場所作り、社会とつながりながら健康維持できる環境が必要だと思います(医療費、介護の削減にもつながり)。そういう場所に住みたいです。そういう場所を探しています。
- 高齢化に伴い、いずれ車の運転等もできなくなります。静かで落ち着いた暮らし、緑豊かで文化的な暮らしができるコンパクトシティを創造して下さい。

#### ◎住宅の供給に関すること

- 空き家や何も無い土地を見ると、若い世代の夫婦がもっと住みやすい家を建てたり、住みやすい環境作りに、それらの土地を使えばいいのと思う。空き家をリノベーションして、お金の無い若いカップル(年配の方も)に、安価に住んでもらえば良いと思う、そうすれば若いカップルの同居率、結婚率が上がり、出生率も上がると思う、
- 子供たちが安心して暮らせる将来になるよう今の大人たちがもっと関心を持ち小さなことからでもいいのですぐに取り組まなければならない。知識もなく分譲マンションを購入したが今ある空き家をきれいにしたり、メリットを伝えて資源を大切に緑を壊さないようにしていかないといけない。どんどん使われていない田畑を業者が購入し販売している現状に危機感をおぼえる。田舎の良さを最大限に活用してほしい。SDGs とあわせた発信を市や県にお願いしたい。少しずつの人のでも賛同すれば大きな力になると思う。新しい駅も不要。
- 私のように独身の女性、単身者が増えてきている中でマンションを購入しようと思ってもファミリー向けの間取りや広さのものがほとんどで、都会のように1LDK や2LDK の分譲マンションが徳島ではなかなか新しく建たないので、そういったマンションが増えたら

いいなと思っています。皆が住みやすい社会の実現はなかなか難しいと思いますが、このアンケートが何かのお役に立てると嬉しいです。

#### ◎住宅改修、住宅購入などに関すること

- 持ち家や家を建てることにはあこがれるが、徳島市を選ばないと思う。子育ての約20年間で、その後ではライフスタイルが大きく変わり、多額のローンを組んで家を建てても、20年後にはまだ残っているローンと、子供が自立して残された私と夫、老朽化した家が残るだけ。それなら賃貸にして、ライフスタイルに合わせて引越していきたい
- 子どもの数が多い家族が家の建て替えを考える場合、補助金があればよいと思う（建てた時は子ども部屋2つだったが実際は子どもが3人になった家族など）。
- リフォームや耐震化について、するべきだと思っても費用や時間がかかると手を出しにくい。それを気にせず行える政策を考えてほしい。
- リフォーム等の補助金の予算を増やしてほしい。補助金の申請方法をわかりやすくしてほしい。

#### ◎災害への不安や防災対策などに関すること

- 近年大型台風やゲリラ豪雨等水害に対する備えが重要になっている。このような状況の中、郊外に設置してある排水ポンプ場の能力の増強をしてほしい。
- 水が出る、類焼の危険がある、地震倒壊可能性ある古い住居などの住宅や空き家をなくしていくよう個より行政の力を強くして計画的な街づくりを!いらぬ税金を使わぬように。上下水道の整備へのムダなお金を使わず居住地域を限定できるような仕掛けがあると良いが……。
- 生まれた時から徳島で比較的災害も少ないので他に移住する気はない。南海地震など意識はして新築はしたが、不安には思う。10年経ち、修繕か所も出てきた、持家の維持も大変だと思始めている。正直市営住宅については何も分からない。
- 南海トラフ地震に備えられる住環境は必要不可欠。また、発生後、住まいを無くす人々に対する仮設住宅や空き家を利用した住宅の提供等、地震が発生した後の環境作りも必要と考える。

#### ◎交通の問題に関すること（交通利便性の向上、交通安全対策など）

- 田畑だった所が賃貸住宅になり、人口が増えてきているように感じる地域に住んでいますが、道路は狭いままで、通学する子供、自転車、車が対向に気を配りながら生活しており、都市計画で、疑問に感じております。賃貸住宅が増えるのは、魅力ある都市づくり、街づくりのための市の方針（規制）がないからではないか、と不安（満）です。
- 利便の良い地域の宅地化が進みすぎ、田園、畑がどんどん減っている。これにより住宅が密集し始め、通行車も増え、交通事故へのリスクが高まっている（特に通学路が多い地域において）。
- 買い物や通院など不自由地区へのコミュニティーバスの導入

●高齢化社会において、住居と公共交通機関の充実についても必要と考えます。免許の返納を行う高齢者が増えていくことが想定される中、住居と市街地を結ぶ足となる公共交通機関の充実が望まれます。

●住居選びでのポイントは道路事情、狭くなく車で通りやすいことや渋滞に巻きこまれないところであることが重要です。道路事情の悪い箇所が多いように思うので（危ない横断歩道、交差点、自転車の通りにくい道路等）。改善をお願いしたいことたくさんあります。財政面で苦しいことは承知していますが、健全な市営住宅への取り組みや、住環境の整備をもっとしていただければ徳島市で暮らす魅力が増すと思います。

#### ◎子育て支援、教育環境などに関すること

●若い人が住みたくなるような、子育てや学習環境に活用できるスペースを作り、市民主体で街づくりできるサポート大勢を整える必要があると思います。助成制度を幅広くつくり、積極的にPR（大事）してほしい。

●学区を考えると徳島市から出られないが、より景色がよくて自然豊かなエリアもあこがれる。そういうところで大きな家を建ててみたいけど、優先順位はやはり子供たちの学校生活が1番。とくに徳島は私立がないので。進学校に通わせなければ市内しかない。

●保育園を増やすか、そういった(子育てしやすい)環境作りが必須。子育て(共働き多数)→お金かき集めてでも保育園設立→出生率 UP→子どもが成長し納税→保育園設立費用がまかなえる→徳島潤う。

●田んぼだったところが土地になって、新しい家がたくさん建ってきている。そのような地域に子供数の増加が予想される。保育施設や小学校の教室数のバランスがやや心配である。休校や廃校に残念ながらなってしまう施設の有効利用をしてほしい。

#### ◎仕事や雇用（主に若者の流出）に関すること

●四国は住む分には災害も少なく、土地食料も不安が少ない。そこは非常に優れた点なのに労働賃金が低いせいで都会からの移住を誘致できていない。

●安定した仕事・収入があって日常の生活が充実し「今後」を考えることができる。雇用・収入の安定化を若年層からどのように計っていくかが住まいの充実につながっていくと考える。住まいづくりの前には、生活の安定が必要である。

●西新町の開発に対して、工場を誘致してほしいです。そうすれば阿南から汽車に乗って働く人もくるし、鳴門、鴨嶋、県外からの移住者も見込めると思います。東新町もにぎやかになると思います。

#### ◎地域の活性化（娯楽や集客施設の不足など）に関すること

●魅力の少ない徳島ですが、方向性さえ安定すればどうにかなると思っております。徳島初の出店がよく耳に入るようになり、そこで雇用が増えることで若者の定住ないし、シニアの働き口にもなると思いますので、どんどん融資をして新しい風が入ればと思います。

●市街地の活性化を図ってもらいたい。車がないと移動できず、皆が車で移動するのだから、再開発する時には駐車場とセットで開発しないと結局利用されなくなると思う。公共交通機関は本数もルートも限定的であり、利便性が悪いのだから自家用車が増えているのであ

り、公共交通機関を利用しましょう等と言うのは現実的ではない。再開発時には駐車場整備もいっしょに考えてください。

◎情報発信に向けた取り組みに関すること

- 社会的弱者にとって暮らしやすい街になるようオンラインも含めたコミュニティを活用して、住環境の現状について意見をききとり、重要なインフラ整備につなげてほしいです、取り組んでくださっている内容をどんどん広報してください。SNS 利用していただくと、いろんな方から意見もらえenと思います。
- 駐車場ばかりが目立つ気がします。公園、緑地にもっと土地活用をして暮らしやすい徳島、移住したい徳島、魅力発信できる地域作りに力を注いでください。有意義な予算利用をお願いします。

以 上